

カワサキノコト

カワサキ Hatsu

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

ブランドメッセージには、「川崎は、多様性を認め合い、つながり合うことで、新しい魅力や価値を生み出すことができるまちをめざしていく」という意味が込められています。ロゴマークの「赤」「緑」「青」は、交じり合うことでどんな色でも作り出すことができる光の三原色をイメージしており、川崎の「多様性」や「可能性」を表現しています。

市ホームページ

川崎市 検索



市 LINE公式アカウント
受け取りたい情報を選んで
受信できます
@kawasakicity



市 シティプロモーション X
川崎が好きになる情報が
満載です
@kawasaki_pr



市 シティプロモーションサイト
Colors,
川崎で新たな価値創造に
挑戦する姿をお伝えします



市 シティプロモーション
インスタグラム
@kawasakicity_pr



市 シティプロモーション
YouTube
@kawasakicitypr



カワサキノコト 川崎市市勢要覧2026

カワサキノコト2026

04 オープニング

06 **特集**
カワサキHatsu

- 06 File01 世界が驚いた「藻」の力 次の千年の日常を創る／ちとせ研究所
- 07 File02 Dリーグ史上初2連覇 「常勝軍団」にして地域密着の兄貴分・姉貴分／KADOKAWA DREAMS
- 08 File03 「体内病院」があなたを救う日 ナノマシンで挑む世界初の挑戦／ナノ医療イノベーションセンター
- 09 File04 川崎発、日本初の県境越え 自動運転バスが「日常」へ／KAWASAKI L4 Bus Project
- 10 File05 子ども夢パークで輝く笑顔 対話が生んだ日本初の子どもの権利条例／子ども委員会
- 11 File06 ボクサーが地域を見守り「防犯ロードワーク」 全国波及の立役者／川崎新田ボクシングジム

12 **市長企画**
川崎発「人づくり」の挑戦——「教える」から「対話」へ
川崎ならではの教育で未来を拓く
川崎市長 福田 紀彦 × 川崎市教育委員会 委員 西井 孝明

16 カワサキHatsu+ 日本初 アジア初 世界初

18 FIND THE NEXT Hatsu
今、見逃せない才能

20 カワサキHatsu!をギュッと満喫 ちょこっと3時間旅
Kawasaki 3Hours Trip+ より道スポット

- 21 川崎区 もはやないものはない！？ 進化し続ける川崎駅周辺から旬を探そう！
- 22 幸 区 よく学び、よく見よう！ 動物と本のワクワク大冒険 子育て世代に人気のエリア
- 23 中原区 川崎フロンターレの世界へ たくさん歩いた後はひとつ風呂で締めくくり
- 24 高津区 あれもこれも脱炭素！？ 官民一体で取り組む最先端を巡ろう
- 25 宮前区 魚も肉も野菜も果物も ここは川崎の台所 新鮮なもの勢ぞろい！
- 26 多摩区 かつての宿場が新時代へ カフェ密度ナンバーワン！？人気店が続々
- 27 麻生区 文化施設も公園も集積 映画や芸術、緑豊かなまち 歩くだけで感性を刺激

市勢要覧2026

- 28 川崎市総合計画
- 34 データで見る川崎
- 38 歴史で見る川崎
- 40 名誉市民・市民文化大使など
- 42 川崎市歌など

カワサキHatsu

このまちが、
次の時代の
常識になる。

Humanity
人情

155万人を擁す大都市でありながら
人情味あふれるまち

音楽
アート

Advanced
先進的

世界最先端の技術が集まる
イノベーションの拠点

発達

ストリート
カルチャー
スポーツ

Tolerance
寛容

多文化共生の歴史を基盤に
さまざまなルーツの人を受け入れる
人権先進都市

発見

発祥

自然
都市農業

発掘

これまで川崎らしさを起点に生まれた
数多の取り組みを、日本全国、そして
世界へ「発」してきたように。これから
も、次の時代の常識を創る挑戦のまち
であり続けよう。

さあ、ページをめくって。この地で芽
吹いた新たな可能性に触れてみよう。

Utility
実用性

充実した交通網など
生活利便性が高く、
都会的で合理的

先端技術
チャレンジ精神
優しさ

発信

Sustainability
持続可能性

遠く先の未来まで
選ばれ続ける循環都市

発展

世界が驚いた「藻」の力 次の千年の日常を創る

ちとせ研究所
Tech & Biz Development Div.
Manager
猪崎 風葉さん

2025年、大阪・関西万博の日本館。未来のエネルギーと食の鍵として注目を集めたのは、緑色に輝く「藻」でした。その技術監修を担ったのが、高津区に拠点を置くちとせ研究所です。同社でマネージャーを務める猪崎風葉さんは、「藻類が全ての産業を支える中核資源となり、千年先まで続く豊かな社会を実現したい」と意気込みます。

日本館のテーマは「いのちと、いのちの、あいだに」。来場者は、淡い緑色が輝く幻想的な空間に癒やされ、藻が燃料や食料に変わる未来の技術を目の当たりにしました。猪崎さんは、「生きた展示のため、管理は大変でした。でもそれ以上に、世界中の人々が藻の力に驚き、可能性を感じてくれたのが本当にうれしかったです」と振り返ります。陸上植物と同様に、二酸化炭素と



藻類を手に未来を語る猪崎さん

太陽光で光合成を行う藻は、体内に「油」と「タンパク質」を効率よく蓄える性質があります。この油は石油と似た性質を持ち、航空燃料やプラスチックの原料になると期待されています。油を絞った後もタンパク質などの栄養素を多く含むため、食料や飼料としての可能性にも注目が集まっています。

2005年に小さな試験管から始

まった事業は現在、マレーシアの5haに及ぶ敷地で展開する藻類生産実証プロジェクトにまで拡大。熟練の知見とデジタル技術を駆使して安定的かつ大規模な生産体制の確立に挑み、2030年には2000ha以上の拡大を見据えています。

「MATSURU」で産業基盤を創る

ちとせ研究所の取り組みの中でも特にユニークなのが、産業横断型の共創イニシアチブ「MATSURU」です。2026年2月現在、大企業や中小企業、公的機関まで業種の垣根を越えて128組織が参画し、ちとせ研究所はその中心で共創の旗振りを行っています。この連携から生まれた製品は、プラスチックから化粧品、塗料、みそ汁まで多岐にわたり、日本館でも披露されました。「社会課題から逆算して、地球の未来のために産業基盤ごと創りかえる」という理念のもと、一社だけでは成し得ない変革を、まさに「お祭り」のような熱気と連帯感で推進しています。

未来の世代が、今と変わらぬ豊かな暮らしを当たり前に享受している、そんな社会が実現する所としたら。そこでは、私たちの身の回りにあるものの多くがいつの間にか日常に溶け込んだように、藻由来の製品

が身近になっていくのかもしれない。猪崎さんは、「将来、孫やひ孫に、『藻類が当たり前のこの社会は、おばあちゃんたちが始めたんだよ』と胸を張って言えるようになりたいです」と野望を語ります。川崎発のイノベーションが地球規模の課題を解決する。大きな志を胸に、着実に歩みを進めています。

ちとせ研究所

高津区の「かながわサイエンスパーク」に拠点を置くバイオ企業。微細藻類や細菌・真菌などの微生物、および動物細胞の育種・培養技術を核に、エネルギー、食品等多岐にわたる産業のバイオ化を進めている。社名の「ちとせ」は、高津区千年の地名にも由来する。

航空燃料からみそ汁まで
藻が日常に溶け込んだ社会へ

Dリーグ史上初2連覇 「常勝軍団」にして 地域密着の兄貴分・姉貴分

カドカワドリームズ
KADOKAWA DREAMS



ダンスを含むエンターテインメントの
持続可能性への挑戦

川崎市は音楽、スポーツ、そしてダンスが息づく、若さと活気に満ちた文化都市です。近年脚光を浴びているのが、圧倒的なスキルと革新的なクリエイティブで観る者を魅了するプロダンスチーム「KADOKAWA DREAMS」(以下KD)。日本発・世界初のプロダンスリーグ「Dリーグ」で存在感を放っています。

川崎が誇るこのプロダンスチームは、株式会社KADOKAWAが2020年10月に結成し、中原区を本拠地としています。2020年に発足したDリーグ史上初の2連覇(22-23、23-24シーズン)という金字塔を打ち立てた実力者でありながら、地域に密着した活動でファンだけでなく市民からも親しまれています。

逆境からの王者

今こそ「常勝軍団」と称されませんが、20-21シーズンは6位という屈辱も味わいました。そこからのチームの立て直しこそが、KD物語の核となっています。

その復活劇を支えたのは、圧倒的な「表現力」の進化でした。個々のダンサーの身体能力は極限まで磨き上げられ、ヒップホップをベースにしつつも、ジャズ、コンテンポラ



市内の小学校でダンスを指導するメンバー

リ、ブレイキンなどあらゆるジャンルを融合。アニメや映画音楽とのコラボレーション、ファッション性の高い衣装など、ダンスを総合芸術へと昇華させました。

初優勝に輝いた22-23チャンピオンシップでは鬼気迫るパフォーマンスを披露し、審査員と観客から圧倒的な支持を獲得。23-24シーズンも追われる立場となったプレッシャーをはねのけ、2連覇を達成しました。

ホーム川崎への情熱も

ステージ上では鋭い眼光とアグレッシブなパフォーマンスで威圧感すら漂わせるメンバーたちですが、一歩街へ出れば「みんなの兄貴分・姉貴分」の顔に。「KAWASAKI

10,000人ダンスプロジェクト」と銘打ち、市内の小・中学校などを訪問してダンスの授業を行っている他、イベントや地元商店街の催しにも積極的に参加しています。常にハングリー精神を持ち続け、蓄積したパワーを圧倒的な熱量で発散するKD。その視線は国内リーグの王座奪還、そして海外への展開を見据えています。

「川崎から世界へ」。2025年にチームを率いるディレクターに就任したHINATA Mさんが掲げるその目標は、決して夢物語語ではありません。「王座奪還を胸に、KADOKAWA DREAMSは川崎の未来を切り拓く存在として全力で戦います」と熱く語ります。

地域に愛され、地域と共に育った最強のダンスチームは、今日もフロアの上で、見る者の魂を震わせるパフォーマンスを刻み続けています。

KADOKAWA DREAMS

株式会社KADOKAWAがオーナーを務める、世界初のプロダンスリーグ「D.LEAGUE」に参戦しているプロダンスチーム。2020年10月に結成され、D.LEAGUEで史上初の2シーズン連続優勝(22-23,23-24SEASON)を達成し、「日本最強」とも呼ばれる実力派。2025年からは新体制「KADOKAWA DREAMS Association」として活動し、ダンスの枠を超えた多様な表現や地域貢献活動も行っている。

「体内病院」が あなたを救う日 ナノマシンで挑む 世界初の挑戦

ナノ医療イノベーションセンター
センター長
片岡 一則さん

まるで風邪を治すように、がんなどの重い病気を克服できる未来。体内の超小型装置（ナノマシン）が病気を発見し、その場で治療する「体内病院」構想が、現実になるうとしています。臨海部を中心に研究開発機関が集まる「知の集積地・川崎」で進む、世界初の挑戦。私たちの命を守り、明日の医療を切り拓くために情熱を注ぐ研究の最前線を訪ねました。

手術や入院を必要とせず、普段通りの生活の中で難病を治す「未来の当たり前」を創る挑戦が、着実に進んでいます。

プロジェクトを牽引する片岡さんの出発点は、高分子化学の分野でした。恩師から授かった「最後は人の役に立ち、命を救うことを目標にすべき」という教えを研究の原動力と



「体内病院」構想（イメージ）

し、工学と医療の分野を融合したナノテクノロジー研究の世界的権威となりました。2045年の「体内病院」構想実現に向けた歩みの中で、ナノマシンを体内で長期間維持する技術の開発にも成功。がんや認知症、膝関節症など、人類が克服を切望する数々の病。その治療法の確立に向けて進展を見せています。

革新は越境する好奇心が生む

片岡さんが拠点を置く「キングスカイフロント」は、羽田空港の対岸に位置し、研究所、大学、企業など約80の機関がライフサイエンスや環境分野の研究をしています。数ある施設からこの地を選んだ理由は、京浜工業地帯の発展を民間の手で切り拓いたベンチャースピリットと、それを応援する風土が根付いているからだといえます。

「イノベーションは、一人で机に向かっている時よりも、異なる分野の人との出会いや、「越境する好奇心」から生まれます」。片岡さんが話す通り、異分野の知が衝突するオープンな環境がさまざまな成果を生み、異例のスピードで研究が進んでいます。2022年からは、ナノテクノロジーを介護や看護の現場にまで広げ、誰もが在宅で最新の医療ケアを享受できる社会基盤の構築を目指すプロジェクトも展開しています。

「いつでも・どこでも・誰でも健康になれる、「病が気にならない社会」は実現できるはず。ドラえもんやポケッタのように、これからは夢の技術を発信していきます」。川崎で生まれた情熱と技術が世界の医療のあり方を変え、多くの命と健康を救う日もそう遠くはありません。

ナノ医療イノベーションセンター

公益財団法人川崎市産業振興財団が運営する、ナノ医療の研究開発拠点。産学官の連携により、革新的な医薬品や医療機器の開発を推進している。川崎区のキングスカイフロントを拠点に、2045年までの「体内病院」実現を目指すCOINSプロジェクトの中核機関として、世界の医療を変える研究を続けている。



いつでも・どこでも・誰でも健康に
病が気にならない社会の実現へ

川崎発、日本初の県境越え 自動運転バスが「日常」へ

KAWASAKI L4 Bus Project
川崎市自動運転実装推進協議会
(川崎鶴見臨港バス 取締役社長)
野村 正人さん

いつも通りの多摩川スカイブリッジ。見慣れた景色の中、一台のバスが静かに県境を越えています。ただ一つ違うのは、自動でハンドルやアクセル、ブレーキが操作されていること。深刻な運転手不足から路線バスを守るため、日本で初めて実現した「県境をまたぐ自動運転バス実証実験」。2027年度の社会実装を目指す思いを紐解きます。

「壁」を突破せよ メンバーの熱意で

多摩川スカイブリッジなど大都市の中心部を通る走行ルート「羽田連絡線（大師橋駅・川崎市川崎区）と天空橋駅・東京都大田区」で実証実験を行うには、大きな壁を越える必要があります。それは、行政管轄の壁です。公道での走行には安全確保が絶対条件。同協議会は前例の無い中、都県境をまたいだ双方の自治体や警察と綿密な調整を行い、都道府県境をまたぐルートでのL2自動運転走行を日本で初めて実現させました。

を、できるに変える」という情熱を持ったメンバーだからこそ、実現できました」と語ります。目指すゴールは、2027年度の「レベル4（特定条件下での完全自動運転）」の社会実装です。野村さんは、「希望の時間にバスが来て、目的地で降りられる。人間が運転するバスとシステムが動かすバスが地域に浸透して、適材適所で活躍する日常風景が理想です」と未来を見据えています。

「できっこない」を「できる」に変える
交通の未来をつなぐ



乗客が乗り込むと、バスはスムーズに発進しました。車体に搭載された特殊なセンサーが、都市部の難所である路上駐車や歩行者を検知し、安全な判断を下しながら進んでいきます。交通量が1日3万台を超える産業道路や人通りの多い駅前での走行も視野に入れた「KAWASAKI L4 Bus Project」は、安全第一を掲げて着々と進行しています。

市内に1271カ所のバス停を有する川崎市は、1km内のバス停数が20政令都市の中でも最も多く、人口の4割弱にあたる約56万人が路線バス圏内で暮らしています。しかし全国的な運転手不足の影響で、市内ではこの5年間で1日約2000便が減少する厳しい状況となっています。この事態を打開すべく、官民が連携して2024年4月に立ち上がったのが、川崎市自動運転実装推進協

KAWASAKI L4 Bus Project

川崎市や川崎鶴見臨港バス、先進技術を持つ企業などが連携して2024年4月に発足。深刻化するバス運転手不足などの課題解決に向け、自動運転バスの実用化を目指している。2027年度のレベル4運行実現へ向け、実証実験や社会受容性の醸成に取り組む。



運転中の自動運転バス車内
運転手がハンドルから手を離している

子ども夢パークで輝く笑顔 対話が生んだ 日本初の子どもの権利条例

泥んこ遊びも、たき火も自由。大人の「ダメ」という声が聞こえない「川崎市子ども夢パーク（以下、夢パーク）」は、川崎市が日本で初めて策定した「川崎市子どもの権利に関する条例」から生まれた。2024年度には夢パークが「グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞。条例策定時の委員の証言と共に、この場所が守り続ける価値を見つめます。



山田さん（左）と園谷さん（右）

子ども委員会担当事務局（当時）
山田 雅太さん
子ども委員会委員（当時）
園谷 雪絵さん

尊重し、権利を保障する国連の「子どもの権利条約」の精神を取り入れ、たまちづくりの舵を切ったのです。

権利は「わがまま」ではない
対話で生まれた文化

「前例が無い上に、当時は大変な議論がありましたよ」。そう懐かしむのは、事務局として条例策定に向け奔走した山田雅太さんです。「子どもに権利を与えたら、わがままになる」という声も根強かった。

その壁を打破したのが、当事者である子どもたちとの徹底的な対話でした。市は子ども自身が条例策定に参加する「子ども委員会」などを設置。2年間で延べ200回以上の会議や集会を開き、子どもも大人も意見を伝え合いました。

高校生の時に委員として参加していた園谷雪絵さんは、「子どもと大人の対話のプロセスを大切にしながら、条例を一文一文考えた貴重な経験です」と振り返ります。「わがまま」と「自分らしく生きる」との違いを市民全体で学び直し、2000年に市議会の全会一致で条例が誕生しました。

当時子どもだった世代が、今は親となつて我が子の手を取り、夢パークに連れていく。条例が描いた理想は、今や世代を超えた「当たり前」の例が誕生しました。

日常」になりつつあります。山田さんは「夢パークのような場所が市内に増えれば」と未来に向けて期待を寄せます。園谷さんは「条例があるから川崎市に住んでいる」と言ってくれた人もいました。私の誇りで「と微笑みます。対話の積み重ねで生まれたこの場所は、子どもたちの「生きる力」を育み続けています。

川崎市子どもの権利に関する条例と川崎市子ども夢パーク

「子どもは、それぞれが一人の人間である。」の一文から始まる「川崎市子どもの権利に関する条例」は2000年に日本で初めて制定された。この具現化の場として2003年に開設されたのが「川崎市子ども夢パーク」。泥遊びやたき火など自由な遊びと、ありのまままで過ごせる居場所が保障されている。



ボクサーが地域を見守り 「防犯ロードワーク」 全国波及の立役者

川崎新田ボクシングジム
会長
新田 渉世さん



新田会長（前列中央）と現役選手たち

「ボクシングが強ければ良いのではない。選手に社会の一員だという自覚を持ってもらい、地域に貢献することで、初めてまちの皆さんに認められ、応援していただける」と新田会長。「当時はまだまだボクシングには不良とか暴力的といったイメージがあった。ボクサーの社会的地位の向上とイメージアップを図りたかった」と振り返ります。

「選手も社会の一員」

この活動が全国区に広がったのは、当時、プロボクシング協会の事務局長を務めていた新田会長の働きかけがあったから。2018年に全国防犯協会連合会を訪ねて協力を要請しました。プロボクシング協会が窓口となって参加ジムの募集し、全防連と各都道府県・市区町村の防犯協会が連携することで、全国規模で

川崎新田ボクシングジム

多摩区登戸にある日本プロボクシング協会加盟のジム。新田会長は、元東洋太平洋バンタム級王者で、国立大出身初のチャンピオンとして知られる。これまで、日本チャンピオンや東洋太平洋チャンピオンを複数輩出し、技術だけでなく「負けに負けるな」という不屈の精神を提唱。地域密着とボクシングを通じた人間教育を理念に掲げている。

新田会長は、「警察との連携を強化し、事件発生率が高いところを走るなど、より実践効果があるようなやり方を模索したい。市民や住民の皆さんにもっと認知してもらえよう、活動をよりブラッシュアップしていきたい」と、活動の新たなフェーズへ意欲を見せています。

プロボクサーがビブスを着て街中を見回りながら走る「防犯ロードワーク」。全国に先駆けて2010年に取り組み始めたのが、多摩区登戸の「川崎新田ボクシングジム」です。現在では、全国のボクシングジムに波及し、ボクサーたちが各地で地域の安全安心に貢献しています。その取り組みには「選手も社会の一員」という思いがあるといえます。同ジムの新田渉世会長に話を聞きました。

地元の街頭犯罪にジャブ
ジム×警察×防犯協会が連携



川崎ならではの教育で未来を拓く



さまざまな課題に直面し、先の見通せない現代。生成AIの登場により社会の変化が一層加速する今、川崎市の教育も転換期を迎えています。第3次かわさき教育プランのスタートを間近に控えた2026年1月、味の素株式会社の元社長で現在は川崎市教育委員会委員を務める西井孝明氏と川崎市長・福田紀彦が、「川崎発の人づくり」について語る対談が実現しました。学校教育が「教える」から、自ら問いを立てる「対話」を軸とした探究的な学びへと転換する中で、内向き志向を突き破り、多様性を価値に変えて世界へ羽ばたく人材をどう育てるか。これからの時代にふさわしい、川崎ならではの「人づくり」の可能性に迫ります。

なぜ教育の場へ？ 50年ぶりに義務教育の門をくぐる

—日本を代表する稀代の経営者が、なぜ川崎市教育委員会の委員として活動するのか。その背景には、西井氏が抱いていた「世代間の価値観の違い」への深い関心がありました。

福田：経営者としてさまざまなことに挑戦し、成功を収めてこられた西井さんに教育委員を打診した時、実はダメ元でのご相談だったんです。まさか本当にお引き受けいただけると思わず、お願いした身ではありながら驚きました。

西井：長年、企業経営に携わる中で、気になつていたことがあつたんです。それは、個人のレベルを超えて、「世代」という集団ごとに現れる特徴やキャラクターがあるということ。マネジメント層は、そこに戸惑うことも多くて。なぜ、世代ごとに価値観が異なるのかと考えるうち、学校教育の変化が関係しているのではと思うに至りました。私自身が中学校を出てから50年の時を経た今の学校で何が起きているのか、自分の目で確かめたかったんです。

福田：50年ぶりですか！現場を見られて、いかがでしたか？
西井：本当に衝撃的でした。先生が一方的に教えるのではなく、子どもたちが主体的に、自分のペースで学びを深める教育に変わっている。僕らの時代の「教えてやるか

ら、入社から3年、5年は修行だと思つてちよつと待っとけ」なんてやり方が通用しないのは当たり前ですね。

福田：教員も、教科を教えるという仕事だけでなく、子どもたちの学びを引き出す「ファシリテーター」「コーディネーター」などの多面的な役割を求められています。大変だとは思いますが、共に学びを創っていく楽しさも生まれているのではないかと思います。

西井：そのことを感じる場面が、教育委員になつてからの2年間でいくつもありました。中高一貫の市立川崎高等学校で「総合的な探究の時間」の成果発表会を視察した際は、寸劇、ニュース番組風、地域ラジオ局風など、趣向を凝らしたプレゼンテーションに感動しました。地元の農業関係者や商店街、名物店などに協力してもらい、地域と一体となつて学びを深めていることに驚きましたし、この教育を受けて育つ子どもたちはどんな大人になっていくのだろうと、期待で胸が高鳴りました。私が企業でのマネジメントやファシリテーターを通して得てきた知見を役立て、新しい学びの形を支えていきたいと思つています。

福田：僕としても、地域の人たちにも登場してもらつて、社会とつながつた学校教育を提供することが大事だと考えています。学びを面白いと思えるきっかけは人それぞれ。いろいろなものに触れる機会が多いほど、子どもの心にヒットする確率は上がりますから。先生方には苦勞をかけながら

も、昔では考えられないくらい「開かれた学校」になつてきていると思います。

西井：現場を見たり、先生方などと対話したりする中で、学校が開かれた場所になればなるほど、従来の「担任」や「クラス」という仕組みが適合しなくなつてきているのだと感じます。そこに対して工夫がなされ、変わつてきているなと思つたのは、かわさきGIGAスクール構想の取り組みです。端末を駆使して、子どもたちがそれぞれのスピードで学んでいる。これがさらに展開すると、いずれはクラスや学年を飛び越えてつながるようになるでしょう。かわさきGIGAスクール構想推進協力校の南河原小学校ではすでに、学校全体で「道具を活用しながら、どのように学びの機会を創っていくか」が議論されていて、素晴らしいです。

これからの時代にふさわしい 川崎ならではの「人づくり」

—今年4月から始まる第3次かわさき教育プランでは、「一人ひとりが輝き、共に未来をつくる」ということが「めざすもの」として掲げられています。目まぐるしい変化の時代を生き抜くために、川崎だからこそできる、新たな教育の形を考えます。

福田：次期「かわさき教育プラン」の策定には、西井さんにも委員として関わっていただきましたが、率直にどう感じておられますか。

川崎市教育委員会 委員

西井 孝明



1959年生まれ。味の素株式会社で2015年から7年間、代表取締役社長を務め、同社が「パーパス経営」の先進企業へと大きく舵を切るキーマンとなった。現在は川崎市教育委員会委員として、経済界の第一線で培った視点を生かし、公教育の改革と次代を担う人材育成に情熱を注いでいる。

川崎市長

福田 紀彦



1972年生まれ。川崎市立長沢小学校・中学校卒業後、渡米。米国アトランタ・マッキントッシュ高校卒業。米国ファーマン大学卒業(政治学専攻)。神奈川県議会議員、早稲田大学マニフェスト研究所・客員研究員、県知事秘書などを経て、2013年川崎市長に初当選。現在4期目。



「百聞は一見に如かず」 五感での体験が可能性を広げていく。

西井：特に「市民一人ひとりが学びの主役」というメッセージに心を打たれました。企業経営の世界ではよく「学習する組織」という言葉が使われますが、それと通ずるものがあると思います。変わり続ける課題に適応するため、常に新しいことを吸収し、古いことの良いところも踏襲する。これは学びそのものです。全ての人が「自分が主役の学び」に参加することは、とても大事なことだと思います。

福田：川崎ならではの人がづくりに対する期待という視点ではどうでしょうか。

西井：川崎といえばやはり、多様性がキーワードですね。多様性は、課題の解決策を考えるときに、とても重要です。同じような価値観の人たちだけで考えると、異なる価値観を持った人たちが混ざって考えるのでは、生み出されるものの鍛えられ方、精度が全然違います。違いを認め合い、そこから合意形成するプロセスをこれからも大切にしていきたいです。

福田：そうですね。川崎は、多様性が価値を生み、未来を創ってきたまちですから。

西井：また、「市民一人ひとりが学びの主役」にしていくためには、社会と交わる場面を増やす必要があります。産業のまち・川崎にいる、さまざまな知見を持った人たちの力を借りることができれば、子どもたちの選択肢が増えていきます。もし将来、川崎から飛び出していくとしても、「川崎で学んだことは自分の役に立っている」と、川崎への愛情や誇りを持つことにもつ

ながるのではないのでしょうか。

福田：人生の礎を作るといわれる小・中学校の9年間に、地域全体で「よってたかって」愛情を注いで子どもを育てるまちでありたいですね。そういえば先日、原爆体験の継承について考えるワークショップを観察しました。参加した中学生たちに講師が難しくも本質的な言葉で投げかけると、最初は授業で習って知っている「歴史上の事実」だったところから、被爆者たちが伝えたい感情が、確実に「自分の気持ち」として伝わってきている様子でした。能動的に相手を知ろうとすることで、感情を継承できた場面に感動しました。

西井：利他の心、他者を気遣うという価値観がありますよね。世界に出てみると分かりますが、これは日本人の特徴的なところで、この心があるから、世代を超えて他者の体験を自分の中に吸収できたのでしょう。

福田：かわさき教育プランの「自分の幸せみんなの豊かさ」という価値観にも通じますね。

脱・内向き志向 卓越した個性を育む場

「既存の枠組みから飛び出し、外の世界へ目を向けるためには、何が必要でしょうか。川崎が誇る産業力を生かした「卓越スクール（高等専門学校）」構想。尖った才能を育てるための新しい教育プラットフォームについて議論が深まります。

で、今、設立を目指している「卓越スクール（高等専門学校）」のお話を少しばかり。川崎市では、2022年に市立看護短期大学を看護大学にして、2025年には看護大学院も開設しました。これは、地域で必要とされている「地域包括ケアシステム」を支える人材を、自分たちでしっかりと育てていくために取り組んだことでした。次は「ものづくり」の世界で、ということ、高度なデジタル人材や量子分野の技術者を育てていくために、市立という枠にこだわらず、企業や大学などと一緒に議論しているところなんです。この構想について、西井さんのお考えを聞かせてください。

西井：川崎は全国でも有数の研究開発施設の集積地です。川崎で育ち、学んだ子どもたちが将来、市内の施設で活躍できるフィールドがあることは強みです。それから、研究開発は、その成果が「ものづくり」にまでつながって初めて、産業になり、川崎の成長に還元されます。デジタルや量子は、日本がもう一度、世界をリードする可能性を秘めた領域です。高専に通う年齢のうちから、実際のテクノロジーにアプローチでき、自分で能力を開発するなどしながら、ものづくりに貢献できる環境を作れたら、可能性が広がっていくのではないのでしょうか。

福田：現場に近い場所で学べる環境を、川崎だったら提供できる。このポテンシャルをしっかりと生かしていきたいですね。

西井：研究開発やものづくりといった機能の面だけでなく、人づくりの部分まで組み



福田：日本の子どもたちは内向き志向だと言われて久しいですが、世界を見てきた西井さんはどう捉えていますか。

西井：日本は環境が整いすぎているからでしょうか。何かを学ぶにしても、大抵は国内で事足りてしまいます。ですが、ビジネスの世界では、アスリートの大谷翔平選手のように「二刀流」の人材が数多く活躍しています。そういう人は往々にして、海外経験を積んで自分の専門以外の武器を身につけている。若い時ほど柔軟に吸収できますし、若いからこそ得られる経験があります。卓越した能力を持っている、卓越した価値観にアプローチしたいという強い思いを持っている若い人が世界で経験を積み支援するのも重要な仕事だと思っています。

福田：「卓越」というワードが出ましたの

未来を担う君たちへ 一歩踏み出す勇気を

「これからの世界を創る子どもたち、今を支える大人たちへ。エールを贈ります。」

福田：これからの子どもたちに期待するところなどはありますか。

西井：子どもたちには「百聞は一見に如かず」と伝えたいです。SNSなどから得られるものと、実際に現地で五感で体験して吸収するものは全く違います。リスクもありますが、それを上回る可能性が広がっている。だから一歩踏み出す勇気を持ってほしいです。保護者の方を含めた私たち大人の仕事は、その環境を整えることですね。

福田：以前、子どもから「市長は、日本の未来は明るいと思いますか？」と聞かれたことがあるんです。僕が即座に「必ず明るいんです！」と答えると、ホッとしました。表情になって。そのときハッとしました。大人が「大変だ、大変だ」という雰囲気の中で育った子どもは、未来が明るいと思えるだろうか。きつと尻込みしてしまう。僕は、大人こそが一歩踏み出して、挑戦しなければと思っています。失敗は必ずある。あるんだけど、それをしなやかに乗り越えていくんだと示す。その背中はず、子どもたちにも見えているはずなんです。

人生の礎を作る9年間に、 地域全体で「よってたかって」 愛情を注ぐまちでありたい。

Keyword



かわさき教育プラン
川崎市の教育施策の内容を記載した行政計画。川崎の教育が「めざすもの」を市民の皆さんと共有し、連携・協働して取り組みを推進するための指針となっている。2026年度から第3次計画を開始する。

探究的な学び
子どもたちの「問い」からスタートし、他者や地域と協働しながら自分の思考を広げ、深めていく活動。「総合的な学習（探究）の時間」を中心に展開されている。



かわさきGIGAスクール構想推進協力校
1人1台端末で「子どもが主語の学び」を推進。学ぶ方法や相手を課題に応じて選択する学びや、意見を即座に共有する協働的な学びを実現。教職員の働き方改革に向けたDXも進めている。

カワサキHatsu

日本初
アジア初
世界初

川崎から始まった「日本初」「アジア初」「世界初」はたくさんあります。今回は、川崎が誇る「初」モノを一挙に7つピックアップ！あなたは、いくつの川崎「Hatsu」を知っていますか？

5



ジャンプロープ世界選手権大会 川崎で日本初の開催

日本初!

ジャンプロープの世界一を決める「WORLD JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS」が2025年夏にカルッツかわさきで開催されました。ジャンプロープとは縄跳び競技のことで、1人で跳ぶシングルロープや複数人で行うダブルタッチなどがあり、アーバンスポーツの一つとして人気が高まっています。川崎市では、これまでも国内外のさまざまな大会が開催されていて、そうした取り組みや実績が認められ、国内初の開催地に選ばれました。

1987年に日本初の本格的なシネマコンプレックス(シネコン)としてオープンしました。当時、低迷が続いていた日本の映画業界に大きな衝撃を与え、活性化に貢献しました。イタリア語で「映画の街」を意味する「チネチッタ」の名を冠し、川崎市が推進する「映像のまち・かわさき」施策において、今もなお中核的な役割を果たしています。

日本で初めての本格的な大型シネコン
映画業界の活性化に貢献



1987年当時のチネチッタ外観

日本初!

4

アジア初!

アジアで初 商用量子コンピューター稼働

日本IBMによって2021年7月、アジアでは初めてのとなるゲート型商用量子コンピューターIBM Quantum System One「Kawasaki」が新川崎・創造のみに設置され、稼働を開始しました。

量子コンピューターは、従来型のコンピューターでは膨大な時間を要する問題でも短時間で解けるようになる可能性を秘めていて、さまざまな分野での活用が期待されています。川崎市は人材育成や社会実装支援などを通じて、この地域を中心に市内全域で量子分野でのイノベーション創出を目指す「量子イノベーションパーク」の取り組みを進めています。



出典：日本アイ・ビー・エム株式会社

6

世界初の新技術
ペロブスカイト太陽電池

7



ペロブスカイト太陽電池を持つ宮坂さん

世界が注目するペロブスカイト太陽電池を発明したのは、麻生区万福寺に本社を置く「ベクセル・テクノロジーズ」です。ノーベル賞の受賞も期待されている桐蔭横浜大学特任教授の宮坂力さんが代表取締役を務めています。

この太陽電池は従来品と比べて薄くて軽く、曲げられるなどの特性があります。これまでは設置が難しかった場所にも設置できるため、次世代の太陽電池として飛躍的な普及が期待されています。

1

ごみ処理施設では国内初 脱炭素化を目指す挑戦

「膜分離法」と呼ばれる技術を活用し、ごみ焼却施設の排ガスから二酸化炭素を回収する実証実験が、2026年3月から川崎市浮島処理センターで始まりました。国内初の試みで、住友化学、JFEエンジニアリングと共同で進めています。省エネルギーで設備をコンパクト化できるのが特徴で、都市部のごみ処理施設における脱炭素化に向けた新たな取り組みとして注目を集めています。

日本初!



浮島処理センター

2

日本初!

「クリーンかわさき号」は1995年に国内初の廃棄物専用列車として運行を開始しました。市北部の人口急増に対してごみ処理が追いつかず、市はJR貨物の路線を活用し、浮島処理センターへ運ぶ運用に乗り出しました。

市内の廃棄物処理施設(ごみ焼却・資源化)の整備が進むと、その積荷の種類を変え、現在は焼却灰とプラスチック資源を輸送。交通渋滞の緩和にも貢献する、環境に優しい「クリーン列車」となっています。



クリーンかわさき号

国内唯一の廃棄物専用列車
クリーンかわさき号

日本初カラーテレビの開発 ラゾーナに残る ブラウン管発祥の碑

日本初のカラーテレビは、幸区の東芝小向工場(現・小向事業所)で開発されました。当時テレビの基幹であったブラウン管については、川崎駅前にあった堀川町工場が製造を担いました。現在、堀川町工場の跡地にあるラゾーナ川崎プラザの敷地内に「東芝ブラウン管発祥の碑」が設置され、この地で生まれた技術の功績を伝えています。

日本初!



東芝ブラウン管発祥の碑



提供：株式会社 東芝

3

深夜の熱狂 ハンデを凌駕する努力



数々の大会で結果を残す田久保萌夏さん。その裏には、凄まじい努力がありました。人見知り克服のため通い始めた音楽教室で魅力にはまり、朝から深夜までピアノ漬けの生活がスタート。

手が小さいハンデを工夫と練習量で乗り越え、難曲「ラ・カンパネラ」も弾きこなせるようになりました。家族が「もうやめて」と心配するほどの没頭ぶりが、彼女の音楽を形作っています。「応援してくれた地元へ恩返しを」。田久保さんは今日も鍵盤に向かいます。

幸区在住。2歳からピアノを始める。「第23回シヨパン国際ピアノコンクール アジア大会」プロフェッショナル部門金賞。ポーランド国立シヨパン研究所NIFC賞受賞。テレビ朝日「題名のない音楽会」出演など活躍。ミュージア川崎でのイベント出演多数。第54回川崎市アゼリア輝賞受賞。



ピアニスト
田久保 萌夏さん

隠された左腕 川崎総合科学からプロへ



川崎総合科学高校から初のプロ野球選手が誕生します。ヤクルトから育成1位指名を受けた小宮悠瞳さんは、最高時速143キロの速球が光る左腕投手です。小5で野球を始めた当初、彼は右投げ用のグローブでプレーしていました。「投げづらはあつたけど無難にこなせた」という器用さで、ショートやセンターを担当。その後、祖母に新しいグローブを買って

もらう際に初めて「実は左利き」と明かし、周囲を驚かせたといいます。育成からメジャーへ羽ばたいた千賀滉大投手のような選手を目指し、飛躍を誓います。

川崎総合科学高校3年生(建設工学科)。川崎区出身。大師中軟式野球部を経て、高校で球速を大幅に伸ばしプロの道へ。同校初のプロ野球選手として、育成枠からの「下克上」を狙う。



東京ヤクルトスワローズ育成1位指名
小宮 悠瞳さん

バレエ登竜門V「ずっと踊っていたい」



世界中の若き才能が集うバレエの登竜門「ユース・アメリカ・グランプリ(YAGP)」で、見事頂点に立った寺田羽那さん。華やかな衣装に憧れ、ジャズダンスから転身したバレエの世界で頭角を現しました。「ずっと踊っていたい」という純粋な情熱と、大舞台でのミスも「寝れば治る」と笑い飛ばす強靭なメンタルが彼女の武器です。「笑顔を届けるダンサーになりたい」。英国名門校への切符を手に、小さな体で大きな夢を体現し続けます。

はるひ野小学校6年生。「YARITAYU BALLET STUDIO」所属。YAGP2025米国ファイナル9~11歳女子クラシック部門1位。日本予選最高位。英国ロイヤル・バレエ・スクール短期留学権を獲得。



バレエダンサー
寺田 羽那さん

FIND THE NEXT Hatsu

今、見逃せない才能

教室で、グラウンドで、あるいは自宅の部屋で——。静かに、しかし確実に育まれている才能があります。バレエ、ロボット、化学、野球、ピアノ、そしてアイドル。ジャンルは違えど、このまちから大きく羽ばたいていく6組の若者たち。彼らは今、このまちの誇りを胸に、日本中、世界中を驚かせています。地元から誕生したニュースターたちの飛躍の軌跡を追います。

※学年は2026年3月時点

音大生たちが挑む「青春の再開」



音大生アイドル MARUKADO

幼い頃からピアニストやダンサー、声優を目指して、それぞれの専門分野で孤独に努力を重ねてきた。そんな彼女たちが音大のキャンパスで出会い、アイドルグループ「MARUKADO」として一つになりました。結成のきっかけは、コロナ禍で失われた「青春の再開」です。修学旅行や入学式を奪われた世代が、「丸と角」のように異なる個性を重ね合わせ、音楽の聖地・日本武道館でのフリーライブを成功させました。バラバラの道を歩んできた10人が、同じステージに立ち熱狂を生み出す姿は、まさに青春そのものといえるでしょう。

洗足学園音楽大学の現役生から選抜された10人組。2022年結成。コンセプトは「わたしたちと『青春』を再開しよう!」。学園創立100周年記念での武道館フリーライブを実現。異なる専攻を持つメンバーが互いの個性を刺激し合いながら活動の幅を広げている。

独学の技術で再び世界の舞台へ



プログラミングロボットの国際大会「ワールド・ロボット・オリンピック(WRO)」日本大会決勝で3位に入賞した入江大輝さんは、シンガポールで開かれた世界大会に出場しました。「各国が多様なアイデアで挑戦する姿が刺激になった」と振り返ります。小4の誕生日に両親に買ってもらったキットをきっかけに、「思い通りに動かせるのが面白い」と独学でプログラミングを習得しました。友と二人三脚でロボットの改良に取り組み、次の世界の舞台を見据えています。

プログラミングロボットの国際大会「ワールド・ロボット・オリンピック(WRO)」日本大会決勝で3位に入賞した入江大輝さんは、シンガポールで開かれた世界大会に出場しました。「各国が多様なアイデアで挑戦する姿が刺激になった」と振り返ります。小4の誕生日に両親に買ってもらったキットをきっかけに、「思い通りに動かせるのが面白い」と独学でプログラミングを習得しました。友と二人三脚でロボットの改良に取り組み、次の世界の舞台を見据えています。

芝浦工業大学附属中学校3年生。麻生区在住。team HMK new3所属。大阪に住む中学生とペアでWRO2025に出場。プログラミング言語の習得やAI開発にも関心を広げている。



WRO日本代表
入江 大輝さん

国際化学五輪で銀 未知への好奇心



世界中の高校生が化学の難問に挑む「国際化学オリンピック」で、天野春翔さんは見事銀メダルを獲得しました。UAEで開催されたこの大会では、5時間に及ぶ実験と50ページもの筆記試験に立ち向かいました。「化学は創造性に富んだもの」と目を輝かせる天野さん。その原動力は、未知なるものへの尽きない好奇心です。「これからも面白いものを見つけたい」。銀色のメダルは、彼の飽くなき探究の旅の通過点に過ぎないのかもしれない。

麻布高校3年生。中原区在住。国内の化学グランプリで銅賞を受賞し、日本代表に選出。UAE大会で銀メダルを獲得し、文部科学大臣表彰を受ける。化学に加え、人文学や生物学など他分野への関心も高い。



国際化学五輪銀メダリスト
天野 春翔さん



川崎区

もはやないものはない!?
進化し続ける川崎駅周辺
から匂を探そう!

今なお進化を続け、にぎわいを維持し続けているのが川崎駅周辺の市街地です。宿場から工場地帯、盛り場・商業地へと変遷を辿りながら、近年ではさまざまな魅力を持ち合わせた施設が続々とオープンしています。

2023年には25階建ての川崎市役所本庁舎が完成し、川崎駅周辺では今後も再開発が進みます。そんな進化し続けるまちの匂を探してみました。

- 01 徒歩1分 川崎水族館
- 02 徒歩4分 川崎アゼリア
- 03 徒歩4分 川崎市役所本庁舎
- 04 徒歩7分 東海道BEER川崎宿工場

04 東海道BEER川崎宿工場



ビールで宿場のにぎわい

旧東海道川崎宿沿いのクラフトビール醸造所「東海道BEER川崎宿工場」。東海道川崎宿跡の倉庫を改装して開業。切りガラスの照明越しに川崎工場夜景のような発酵タンクを見ながら造りたてのビールが楽しめます。

住所: 川崎区本町1-4-1 電話: 044-272-3639

01 カワスイ 川崎水族館



アクセス抜群の水族館

2020年に開設された完全屋内型の都市型水族館です。JR川崎駅から徒歩1分の場所で、世界の美しい水辺を体験することができます。300種類以上の生き物を飼育しており、カピバラやナマケモノにも出会えます。

住所: 川崎区日進町1-11 川崎ルフロ9-10階 電話: 044-222-3207 同HP



📍ウイ道スポット

川崎競馬場 川崎駅から徒歩15分、県内唯一の競馬場で、正月期間以外はナイト競馬を開催しています。広大な内馬場芝生広場には大型遊具もあり、ファミリーでも楽しめます。

住所: 川崎区富士見1-5-1

地下に広がるたくさんの発見、出会い。150店舗超のさまざまなお店が待っていますよ。



川崎アゼリア 代表取締役社長 浅岡 浩さん

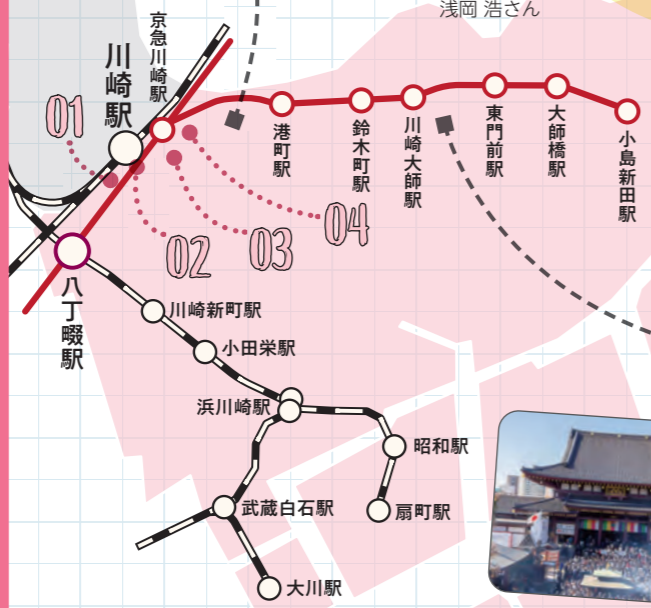


02 川崎アゼリア

国内屈指の地下街

1986年に開業した「川崎アゼリア」。2016年の大規模リニューアルを経て今なお進化を続けています。グルメからファッションまで神奈川初、川崎エリア初を多数含む多彩なラインナップが迎えてくれます。

住所: 川崎区駅前本町26-2 電話: 044-211-3871 同HP



📍ウイ道スポット

川崎大師 平間寺 「厄除けのお大師さま」として知られ、初詣には毎年多くの参拝者が訪れます。正式名称は「真言宗智山派大本山金剛山金乗院平間寺」。

住所: 川崎区大師町4-48



03 川崎市役所本庁舎



無料

大迫力の眺望

2023年に完成した川崎市役所本庁舎は、おでかけスポットとしても注目されています。最上階の25階には展望フロアがあり、半屋外の「スカイデッキ」からの景色は迫力満点で一見の価値があります。1階にはカフェもあり、ゆっくりとくつろげます。

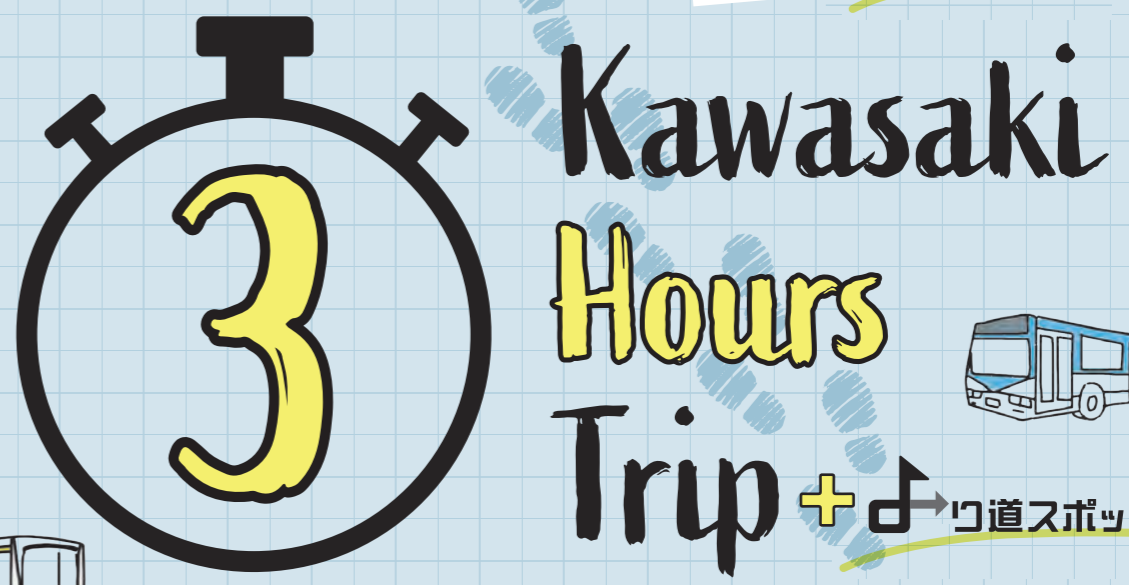
住所: 川崎区宮本町1 電話: 044-200-3939 市HP



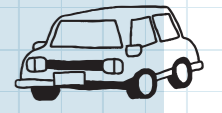
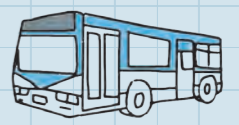
ギュッと

カワサキHatsu!を満喫

ちょこっと3時間旅



Kawasaki Hours Trip + 📍ウイ道スポット



あなたの知らない川崎は、すぐそこにある。
変化し続ける駅周辺の市街地、知識と本物を学べる大冒険、
スポーツカルチャーで熱狂する週末、市内屈指のカフェ激戦区……。
思い立ったらすぐ出かけられる3時間*の小旅行で、7つの区の全く違う顔に会いに行こう。
もっと川崎が好きになる、週末の冒険へ。



各施設・各店舗の営業時間、休業日などは電話やHPでご確認ください
(掲載の二次元コードからHPにアクセスできます)。



*3時間で周遊することが可能なプランとして設定していますが、各施設の滞在時間によって所要時間を超えることがあります(移動時間はGoogle mapを参考に算出)。



中原区

川崎フロンターレの世界へ
たくさん歩いた後は
ひとつ風呂で締めくり

都心へのアクセスの良さから、大きな変貌を遂げた中原区。それでも今なお、古き良きノスタルジーが漂うスポットが点在します。今回は、サッカーJリーグ・川崎フロンターレのお膝元でもある武蔵小杉・元住吉周辺でチームにちなんだスポット楽しみながら、新旧の魅力を見つける旅へといきます。旅のラストはどこか懐かしい雰囲気が漂う銭湯の“フロ”で疲れを癒やしてみては？

東急東横線・目黒線、
JR南武線
武蔵小杉駅
徒歩20分

- 01 Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu
- 02 徒歩20分 FRO CAFE
- 03 電車+徒歩13分 モトスミ・ブレイメン通り商店街
- 04 徒歩10分 今井湯



川崎Fファン必見
1955年開業の銭湯です。「富士の絵」が3つあり、ノスタルジックな気分させてくれます。川崎フロンターレで活躍した中村憲剛さんにちなんだロッカーがある他、優勝記念に作られた風呂桶が展示されています。風呂の種類も多く、朝7時から利用できます。

住所 中原区今井南町34-25
電話 044-722-5136

01 Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu

青に染まる熱狂を体感
川崎フロンターレのホームスタジアムは青色の全天候型トラックが印象的なスタジアムです。試合日にはキッチンカーがずらりと並び、スタジアムグルメが楽しめます。周辺には等々力球場や東急ドレッセとどろきアリーナなどがある他、緑地内の四季折々の草花も楽しむことができます。

※一部施設は工事により利用制限の可能性があります。

住所 中原区等々力1-1
電話 044-722-0303



同HP



同HP



02 FRO CAFE

風呂がコンセプトの公式ショップ
2020年に川崎フロンターレ初の常設オフィシャルカフェが誕生しました。フロンターレの世界にどっぷり浸ってゆったりとしたひと時を過ごしませんか？家族や友人と楽しめるテーブル席から、仕事や勉強にも活用できる電源付きのカウンター席もあります。

住所 中原区新丸子町1008-2
電話 044-767-6111



スタッフ
角田 萌恵さん

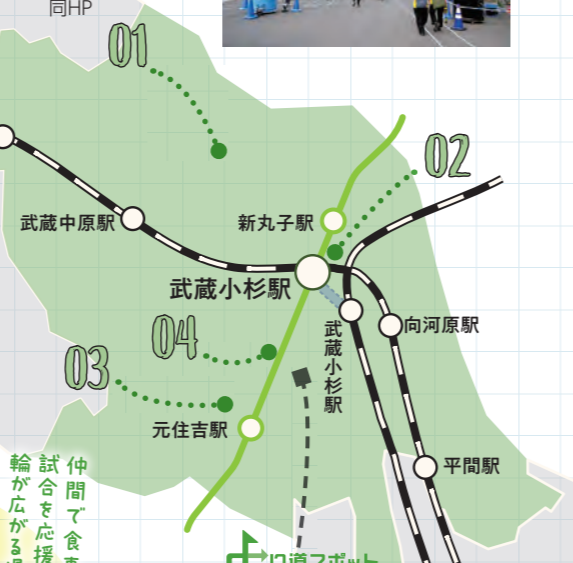
04 今井湯



住所 中原区今井南町34-25
電話 044-722-5136



同HP



仲間で食事したり、試合を応援したり、人の輪が広がる場所です。

中原平和公園 1983年に恒久平和を願い開園しました。園内の平和館には戦中・戦後の川崎の様子がわかる展示や防空壕体験コーナーなどがあります。花の名所としても人気です。

住所 中原区木月住吉町33-1



03

モトスミ・ブレイメン通り商店街



メルヘンでノスタルジー
元住吉駅前の全長約550メートル、加盟店約180店舗で構成される商店街です。ドイツの商店街と友好提携を結んでいて、おしゃれでメルヘンチックな雰囲気があります。通りの中ほどにあるコミュニティセンターは幅広い世代の憩いの場になっています。

住所 中原区木月1-29-18 (元住吉コミュニティセンター)
電話 044-422-3626



同HP

01 川崎幸市場 (川崎市地方卸売市場南部市場)

新鮮な魚はもちろん、お肉、卵など多様な食材が集まっていますよ。



小和田屋ミート
代表取締役
上野 和秀さん



旬が勢ぞろい
来場者は「水産卸売場棟」「関連商品売場棟」「食堂」を利用することができます。新鮮で旬なものはもちろん、珍しいもの、お買い得なものに出合えるはず。イベントも開催しています。HPで確認してからお出かけを。

住所 幸区南幸町3-126-1
電話 044-223-7140



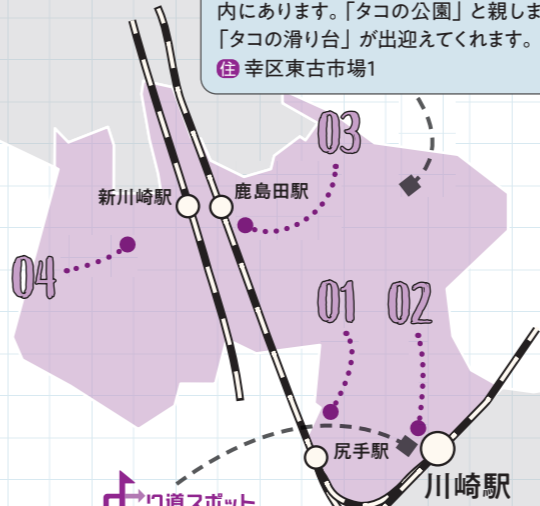
同HP

イベント時は多くの人でにぎわう

♪♪道スポット

御幸公園 国道1号と多摩川河川敷に面しており、明治天皇が行幸された際の記念碑が梅林内にあります。「タコの公園」と親しまれ、名物の「タコの滑り台」が迎えてくれます。

住所 幸区東古市場1



♪♪道スポット

ミュージア川崎シンフォニーホール 世界的音楽家からも評価の高い優れた音響のシンフォニーホール。国内外のオーケストラによる公演の他、パイプオルガンやジャズなど多彩な公演を行っています。

住所 幸区大宮町1310

02 ラゾーナ川崎プラザ



同HP

多彩なテナント 芝生広場でゆったり
JR川崎駅直結でグルメ・エンターテインメントまで多彩な店舗がそろい、一日中楽しめるハイブリッド型商業施設です。中央には大きな芝生広場があり、子ども連れでもゆっくり楽しめます。

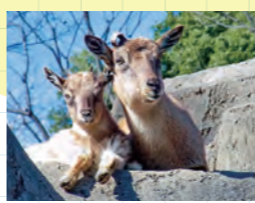
住所 幸区堀川町72-1
電話 044-874-8000

04 夢見ヶ崎動物公園



365日無料開放
1972年に動物展示が始まり、長年にわたって市民から親しまれています。2024年にはパークセンターが開設されました。

住所 幸区南加瀬1-2-1
電話 044-588-4030



マーコールの親子



市HP

03 北野書店



アイデアが満載
書店が数少なくなる中、さまざまなアイデアでいつもにぎわっているのが、1947年創業の老舗書店「北野書店」です。近隣小学校の職業体験をはじめ、各種のイベントや川崎にゆかりのある特設コーナーの設置など、地域に密着した運営で幅広い世代から支持を集めています。

住所 幸区新塚越201
ルリエ新川崎2階
電話 044-276-9100



同HP



北野書店 代表取締役
北野 晋太郎さん

書店として日本初の陳列方法を導入しました。みなさんの知的好奇心にお応えします。



幸区

よく学び、よく見よう！
動物と本のワクワク大冒険
子育て世代に人気のエリア

幸区は市内で最もコンパクトな区です。近年はその利便性から大規模なマンション建設が続き、2025年には新たに小学校が開校するなど、急成長しています。子育て世代を惹きつける魅力とは何か。学びから遊び、ショッピング、グルメまで、さまざまな要素がギュッと詰め込まれた幸区を縦横無尽に駆け巡ってみてはいかが？

JR南武線
尻手駅
徒歩5分

- 01 川崎幸市場
- 02 徒歩16分 ラゾーナ川崎プラザ
- 03 電車11分 北野書店
- 04 バス15分 夢見ヶ崎動物公園



宮前区

魚も肉も野菜も果物も
ここは川崎の台所
新鮮なもの勢ぞろい!

宮前区は、東急田園都市線の駅を中心に市街地が広がる一方で、起伏のある地形の中に住宅に囲まれた農地があります。そこでは農家が畑を耕し、食べる人を思いながら野菜、果物、花などをつくっています。さらに東名川崎インターチェンジによる輸送網が整備され、新鮮な農産物が集まるようになりました。いわば宮前区は、川崎の台所。新鮮なものを見つけよう。

- 01 川崎市北部市場
- 02 車14分 セレサモス 宮前店
- 03 車8分 小泉農園
- 04 車1~20分 農産物直売所

さまざまな食材がそろう市民の台所

食材・飲料・日用品などを販売する関連商品売場や「市場めし」を提供する食堂街は、普段から一般の方が入場・利用できる曜日・時間帯があります。魚介類を販売する水産仲卸売場にも、イベント時などに購入可能な店舗があります。営業時間などの詳細は各店舗にお問い合わせください。

住所 宮前区水沢1-1-1
電話 044-975-2211



川崎市中央卸売北部市場
商業協同組合 事務局長
林 真奈美さん

プロ品質の安心・安全な旬の食材がそろっています。市場の活気を体感してください!

01 川崎市北部市場 (川崎市中央卸売市場北部市場)



市場めし 全13店舗

01 国道スポット

NEXCO中日本コミュニケーション・プラザ川崎 高速道路の仕組みや歴史を学べる展示や体験型コンテンツを用意する事前予約制の無料施設。高速道路を1/150スケールで再現した、全長10mのジオラマは必見です。

住所 宮前区南平台1-1



01 川崎市北部市場

02 車14分 セレサモス 宮前店

03 車8分 小泉農園

04 車1~20分 農産物直売所

02 JAセレサ川崎 ファーマーズマーケット セレサモス 宮前店



新鮮野菜を豊富に取りそろえる 市内の登録農家が毎日、採れたてを持ち込んでおり、新鮮で安全・安心な「かわさきそだち」の農畜産物が手に入ります。おいしい食べ方を教えてくれる「食育ソムリエ」との交流も楽しめます。

住所 宮前区宮崎2-1-4
電話 044-853-5011



同HP

02 国道スポット

フロントアウンさぎぬま 川崎フロンタレが運営するフットサル場です。健康教室やボールウォーキング、ヨガなどの教室を開催。体験もでき、年間延べ約7~8万人が利用しています。

住所 宮前区土橋3-1-1



夏祭り開催時の様子



03 小泉農園

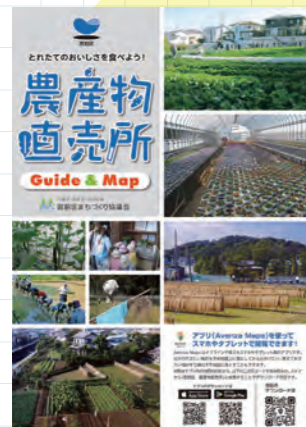
まんまる真っ赤な「わがままいちご」

江戸時代から200年以上続く歴史ある農園です。1月から5月まで完熟いちご狩りを楽しめます。直売所では季節の野菜に加え、小泉農園ブランドの「わがままいちご」を使ったジャムも販売。栽培・収穫の体験イベントを不定期で開催し、農と触れ合う機会を提供しています。

住所 宮前区平6-6-6
電話 080-5449-0372
※要事前予約

同HP

04 農産物直売所



推し直売所を見つけよう

区内には採れたての農産物が販売される直売所が50カ所以上あります。各農家が心をこめて作った野菜や果物を、「農産物直売所ガイドマップ」(宮前区まちづくり協議会・宮前区発行)を片手に探してみてください。



同HP



小泉農園 園主
小泉 博司さん



01 国道スポット

ニヶ領用水久地円筒分水 県下で最も古い人工用水の一つ。円筒分水は、用水の水を中央の円筒から湧き上げ、その外側にある円筒の円周の縁から、4本の水路にそれぞれ一定の比率で水を落とす仕組みです。川崎市初の国登録有形文化財に登録されました。

住所 高津区久地1-34-25

昭和レトロな雰囲気と都会的な雰囲気とが入り混じる魅力的な街です。



JR武蔵溝ノ口駅 駅長
小野 浩貴さん

01 JR武蔵溝ノ口駅



木の空間がお出迎え

JR東日本が掲げる「エコステ」のモデル駅として、太陽光電池やドライミストの発生装置、コンコースに本物の観葉植物が植えられた壁面緑化など、省エネルギー・環境保全に取り組んでいます。改札正面にある南北自由通路の柱やベンチは木質化されており、自然と調和する空間を創出しています。

住所 高津区溝口1-1-1



01 国道スポット

橘樹歴史公園 川崎市で初の国史跡に指定された「史跡橘樹官衙遺跡群」内に整備した公園です。飛鳥時代の役所の倉庫が全国で初めて復元され、古代史好きにとっては大注目の歴史スポットです。

住所 高津区千年423-1



1階にあるビオトープでは、春夏秋冬で色々な生き物を見ることが出来ますよ。



みぞのくち新都市
渡辺 博子さん



02 ノクテイ

再エネ100%でお買い物

ノクテイは、マルイファミリー溝口・専門店からなる、溝口の駅前にある商業施設です。施設運営で使用する電力を全て再生可能エネルギーに切り替えている他、施設で発生するごみの分別を徹底し、廃棄物の再資源化にも積極的に取り組んでいます。日々の買い物の場がまち全体のCO₂削減に貢献しています。

住所 高津区溝口1-3-1
電話 044-814-7777



同HP

03 フランセズラ・ポルテ



スタイリッシュにフードロス削減

華やかで上質なフレンチを気軽に満喫できると人気のフレンチレストラン。川崎市の「#かわさき推しメシ」一般部門でグランプリを受賞。地元産の規格外フルーツや野菜を積極的に活用し、前菜やデザートに変身させ、食品ロス(フードロス)削減を実現しています。

住所 高津区久本1-16-20 フィオーレの森 リラ館1階
電話 044-863-9986



同HP

あれもこれも脱炭素!?
官民一体で取り組む
最先端を巡ろう

溝口駅周辺地区は、2030年度のCO₂排出実質ゼロを目指す「脱炭素先行地域」として国に選定されています。駅や商業施設といった「まちの顔」や、地域に根差したお店やイベントなどで、官民一体となった最先端の取り組みが始まっています。未来のスタンダードになるかもしれない、高津区のグリーンなスポットを巡ってみよう。

01 JR武蔵溝ノ口駅 (溝口)

02 徒歩1分 ノクテイ

03 徒歩6分 フランセズラ・ポルテ

04 徒歩4分 久本薬医門公園 (高津さんの市)

04 久本薬医門公園 (高津さんの市)

久本薬医門公園 (高津さんの市)



年6回、地元の生産者が直接販売!

地元産・市民参加・SUNDAY開催の「高津さんの市」。地元農家の新鮮野菜などを販売しています。地産地消を推進し、食材輸送(フードマイレージ)にかかるCO₂排出削減にもつながっています。

※雨天時や夏の時期には高津区役所にて開催。

住所 高津区久本1-5-19
電話 044-861-3133(高津区役所)

市HP



生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

誰もが安心して暮らせるよう、市民の身近な安全や生活基盤の確保に取り組むとともに、都市全体の安全性の向上を図り、大規模災害にも耐えられるまちづくりを進めます。

また、高齢者や障害者など、誰もが個人としての自立と尊厳を保ちながら、住み慣れた地域や自らが望む場で、安心してすこやかに生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。

指標1 災害に備えて「3日以上以上の備え（飲料水、食料、携帯トイレ）」をしている人の割合

19.4% (令和7年度) **目標値** 40.0%以上 (令和11年度)



災害時に安心して過ごすためには、各家庭において、最低3日分、できれば7日以上分の飲料水、食料、携帯トイレを備蓄することが重要です。

各種防災イベントなど、さまざまな機会を通じて、家庭内備蓄の普及啓発など防災意識の向上に向けた取り組みを進めます。

指標2 「かわさき健幸福寿プロジェクト」の参加者数

川崎市はまもなく、65歳以上の人口割合が21%を超える「超高齢社会」を迎えるとともに、今後、急速な高齢化の進行が見込まれています。

要介護状態の維持・改善された人などを応援する「かわさき健幸福寿プロジェクト」など、高齢期の暮らしを豊かなものとするための取り組みを進めます。

711人 (令和6年度) **目標値** 1,400人以上 (令和11年度)



3日分の備蓄量の目安 (4人分)



かわさき健幸福寿プロジェクトの表彰式

川崎市総合計画

かわさきを幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたい。

そんな思いを込めて市では、「最幸のまち かわさき」という未来をめざしています。

こうしたかわさきの未来を描きその実現に向けた道筋を示すものが「川崎市総合計画」です。

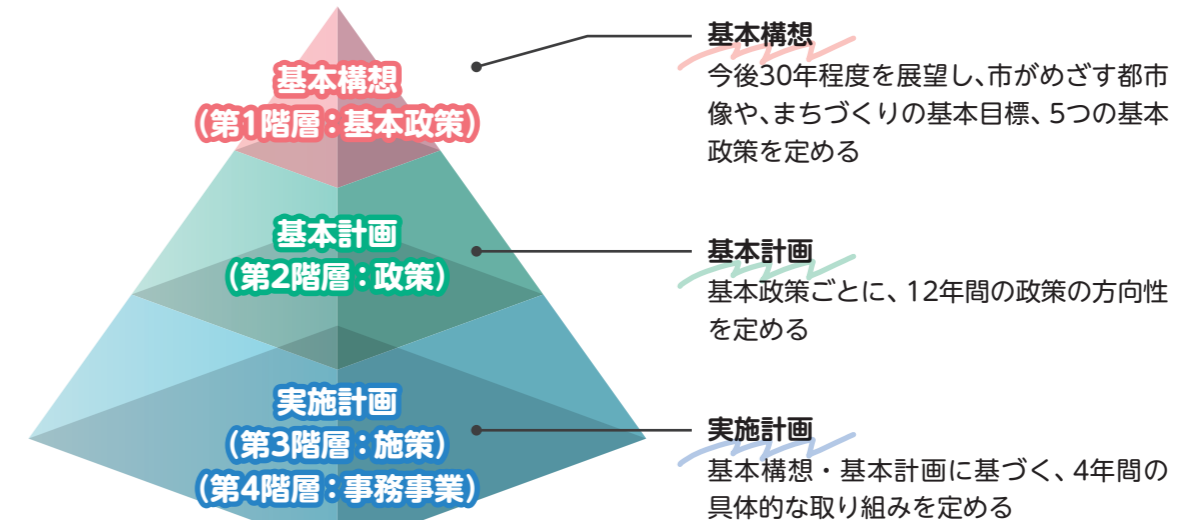
かわさきをもっともっと住みやすいまちにするためこの4月から新しい計画がスタートしました。

計画の柱となる「5つの基本政策」に沿って皆さんに身近な取り組みをご紹介します。

総合計画の詳細は市HP



川崎市総合計画（政策体系）



基本政策
03

市民生活を豊かにする 環境づくり

環境問題への適応とともに、市民・事業者との協働による脱炭素化、資源循環の加速など、環境を保全し、健康で快適に暮らせる持続可能なまちづくりを進めます。

また、多摩川や多摩丘陵など、市民共有の貴重な財産である緑を次世代に継承するなど、人と自然が共生する社会をさまざまな主体と力を合わせてつくりだしていきます。

指標1 1人1日あたりのごみ排出量



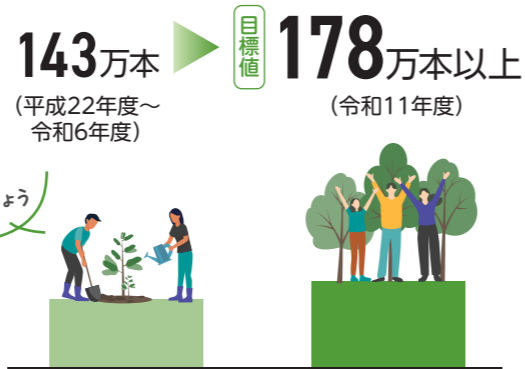
ごみ減量に対する市民の理解と行動により、川崎市は政令指定都市の中で、1人1日あたりのごみ排出量が最も少ない都市となりました(令和5年度実績)。

この状態を継続できるように、市民の取り組み効果を見える化するとともに、市民・事業者との協働により、更なるごみの減量や資源循環の取り組みを進めます。

指標2 協働の取り組みにより植樹した本数

市制100周年記念事業の象徴的事業として開催した「全国都市緑化かわさきフェア」では、多様な魅力とみどりを掛け合わせ、みどりを通じて、多くのつながりを生むことができました。

引き続き自然と都市が成長し続けるかわさきをめざし、市民・企業・学校など、多様な主体による協働の取り組みを通じて緑化を進めます。



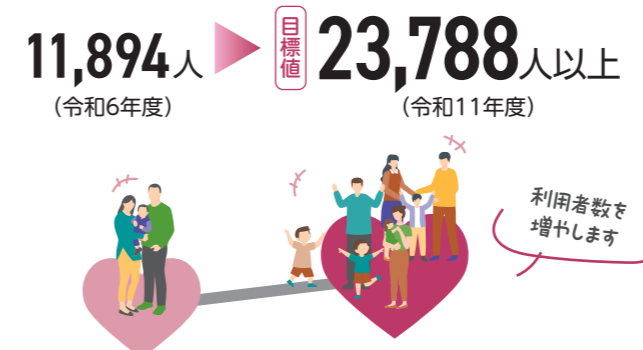
基本政策
02

子どもを安心して育てることのできる ふるさとづくり

妊娠期から子育て期まで、子どもと家庭に寄り添った切れ目のない支援を進めるとともに、地域全体で子育てを支えるまちづくりを進めます。

また、子どもたちが、乳幼児期には他者への信頼感などを育み、学齢期には自立の基礎を築き、多様性を尊重し、共に支え合いながら成長し、力強く羽ばたけるまちをめざします。

指標1 「ふれあい子育てサポート事業」の延べ利用者数



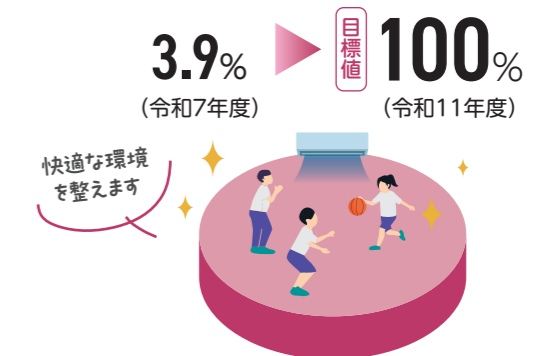
共働きや核家族が増え、子育てを助けてくれる人が身近にいない家庭が多くなっています。

子どもの一時預かりを地域で支える「ふれあい子育てサポート事業」をより使いやすい仕組みに大幅リニューアルする他、地域子育て支援センターなどの身近な場所での相談機能の充実など、地域で子育てを応援する環境づくりを進めます。

指標2 学校体育館の空調設備設置率

近年、気候変動の影響で猛暑日が増加しており、体育の授業や部活動、災害時には避難所としても使われる学校体育館の暑さ対策が課題となっています。

令和11年度末までにすべての市立学校体育館に空調設備を設置することをめざし、スピード感をもって取り組みを進めます。



誰もが生きがいを持てる 市民自治の地域づくり

まちづくりの主角は、そこで暮らし、活動するすべての市民、団体、企業などであることから、市民と行政の「情報共有」「参加」「協働」を基本としながら、市民が主体となって、地域の身近な課題解決を促進するとともに、多様な人々が生涯にわたって学び、生きがいを感じ、共に認め合い、支え合いながら、個性と能力を発揮することができる地域社会をめざします。

指標1 地域活動に関する取り組みに関わっている人の割合

47.9% (令和7年度) → 目標値 50.0%以上 (令和11年度)



市民の地域活動参加が伸び悩む中、社会変化に対応した持続可能な地域づくりと、それを下支えるコミュニティ施策の効果的な展開が必要です。

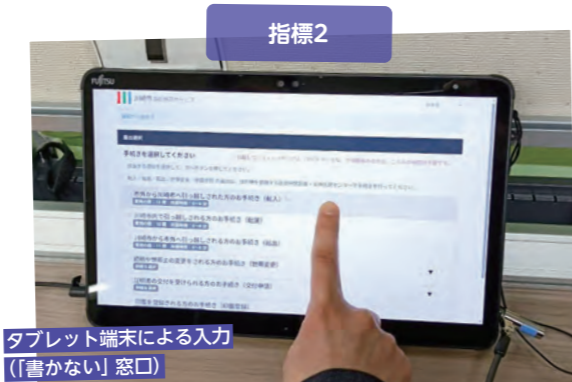
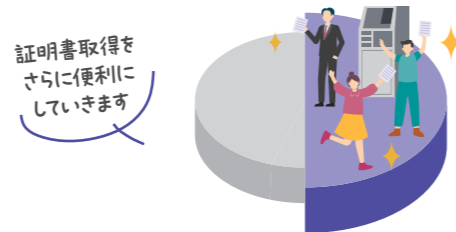
市民活動団体などの多様な主体と連携した取り組みやまちのひろば、各区ソーシャルデザインセンターを通じた取り組み、公益財団法人かわさき市民活動センターとの連携を推進します。

指標2 コンビニ交付による証明書発行の割合

窓口混雑の緩和や来庁者の負担軽減に向け、コンビニでの証明書交付や各種オンライン手続きの認知度向上など「行かなくてよい」窓口の取り組みを進めます。

また、申請書の手書きが不要な「書かない」窓口の拡大や、ライフステージごとの手続きの総合窓口化の検討など、市民の利便性向上に取り組めます。

36.0% (令和6年度) → 目標値 50.0%以上 (令和11年度)



活力と魅力あふれる 力強い都市づくり

中小企業の活性化や誰もが安心して働ける環境づくりとともに、社会課題解決につながる技術やイノベーションの創出拠点の形成など、未来志向の産業都市づくりを進めます。

また、広域的な拠点整備と安全・安心に暮らせる身近なまちづくり、交通ネットワークの形成により、持続可能なまちづくりを進めるとともに、スポーツや音楽などの地域資源を磨き上げ、その魅力を戦略的に発信し、にぎわいと交流が広がるまちづくりを進めます。

指標1 川崎駅、小杉駅、新百合ヶ丘駅周辺の滞留人口(1日あたり)

185.1万人 (令和6年) → 目標値 190.3万人以上 (令和11年)



毎日たくさんの人々が訪れる川崎駅、小杉駅、新百合ヶ丘駅周辺では、大規模な再開発などが進められています。

各拠点の更なる魅力向上と活性化を図るため、民間と共創しながら、多様な都市機能の集積や、都市基盤の整備、公共空間の有効活用などに取り組めます。

指標2 自動運転バスの運行

バス運転手の不足などにより、川崎市内のバス便はピーク時から約20%減少しています。

将来にわたり市民の暮らしやすさの向上や、本市の強みである都市の利便性を確保するため、現在、川崎区で実証実験を進めている自動運転バスの本格運行を実現するとともに、他の区への展開に向けて取り組みを進めます。

※1 レベル2: システムがアクセル・ブレーキ及びハンドルの両方を部分的に操作し、運転手を補助する自動運転

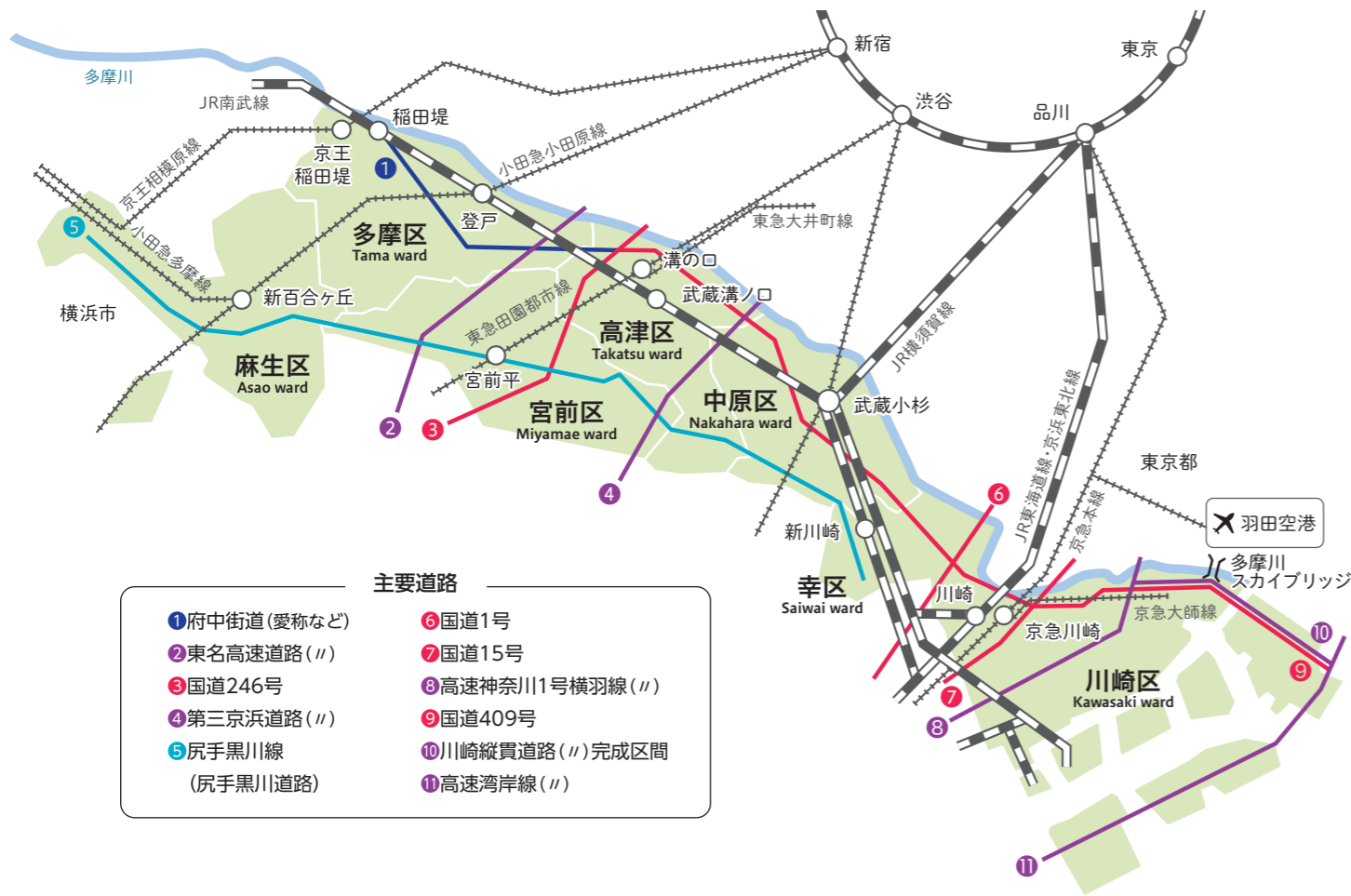
※2 レベル4: 場所や天候、速度などの特定条件下で、システムが車の全ての運転操作を担う完全自動運転

レベル2※1 実証実験 (令和7年度) → 成果目標 レベル4※2 運行開始 (令和9年度)



市民が抱く 川崎市のイメージ

1位 便利!
(47.8%)
(令和6年度川崎市都市イメージ調査)



交通の利便性がいいまち

市内を縦断する形でJR南武線が通り、南武線と交差する形で複数路線が横断。国道246号などの幹線道路も横断するため、交通の利便性に優れています。

さらに、令和4年には多摩川スカイブリッジが開通し、羽田空港へのアクセスが飛躍的に向上しました。

電車でのアクセス

川崎	約 9 分	品川
	約 8 分	横浜
京急川崎	約 16 分	羽田空港
武蔵小杉	約 13 分	渋谷
溝の口	約 14 分	渋谷
登戸	約 16 分	新宿
京王稲田堤	約 23 分	新宿

利用する時間帯によって変わります。

市域面積100km²当たりの
鉄道駅数
大都市中4位!
(令和5年版大都市比較統計年表から算出)



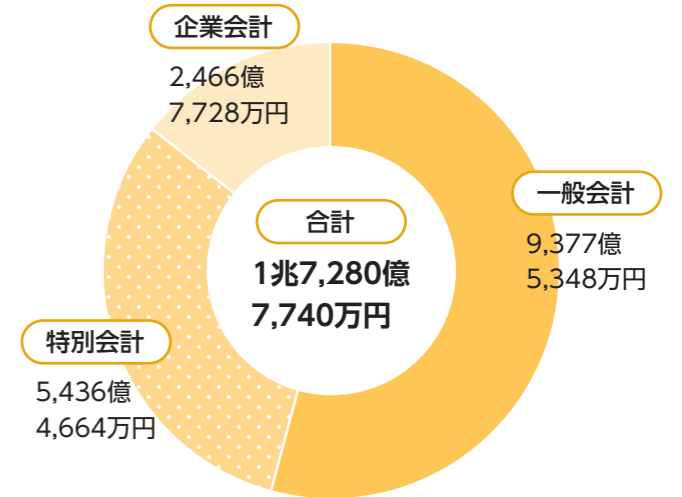
データで見る川崎

川崎市は神奈川県北東部に位置し、多摩川をはさんで東京と隣接しています。横浜市と東京都の間に延びる細長い地形が特徴で、7つの行政区から成る政令指定都市です。このコーナーでは、市の基礎データや川崎の強みを表すデータなどを通して、まちの姿をひもといていきます。

市基礎データ

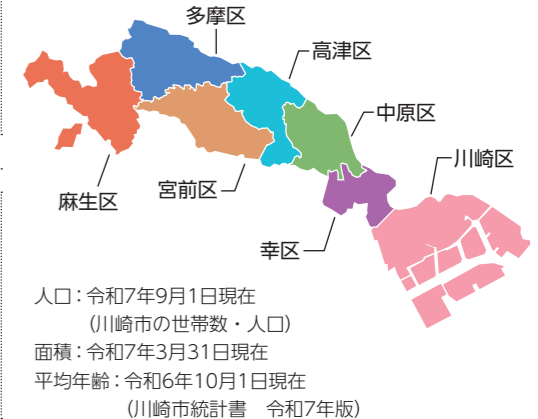
- 人口** 1,558,411人
現在も人口が増加
令和7年9月1日現在(川崎市の世帯数・人口)
- 面積** 144.35km²
政令指定都市で最小
令和7年3月31日現在
- 平均年齢** 44.7歳
政令指定都市で最も若い
令和6年10月1日現在(川崎市統計書 令和6年版)

令和8年度当初予算



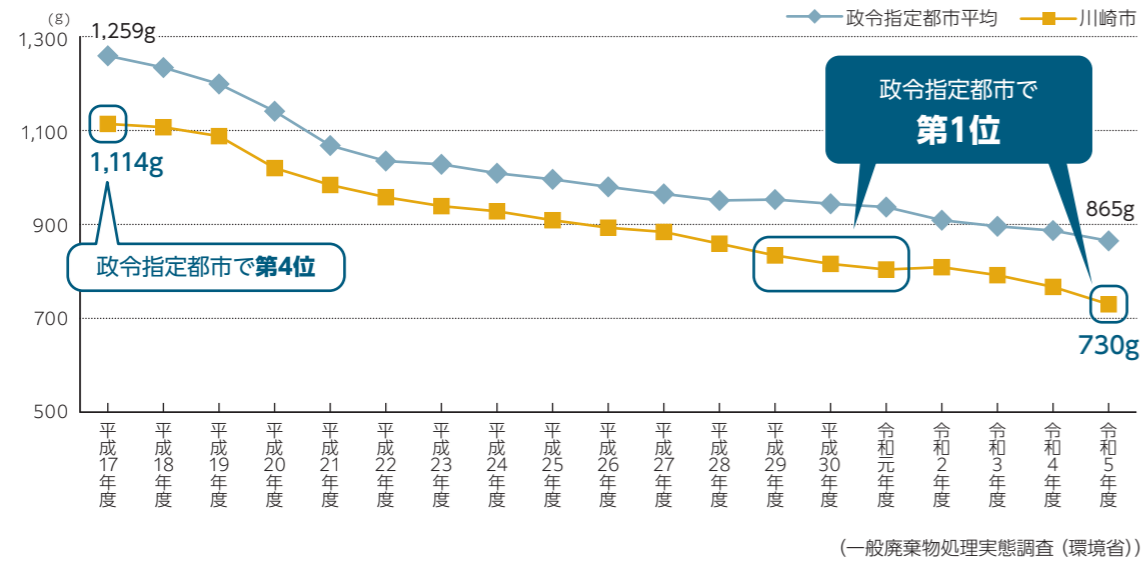
各区のデータ情報

川崎区 人口……232,991人 面積……40.25km ² 平均年齢……45.8歳	幸区 人口……175,453人 面積……10.09km ² 平均年齢……44.7歳	中原区 人口……269,410人 面積……14.81km ² 平均年齢……42.1歳
高津区 人口……236,481人 面積……17.10km ² 平均年齢……44.3歳	宮前区 人口……235,069人 面積……18.60km ² 平均年齢……45.6歳	人口が最も多く、 平均年齢が最も若い
多摩区 人口……228,956人 面積……20.39km ² 平均年齢……44.1歳	麻生区 人口……180,051人 面積……23.11km ² 平均年齢……47.1歳	



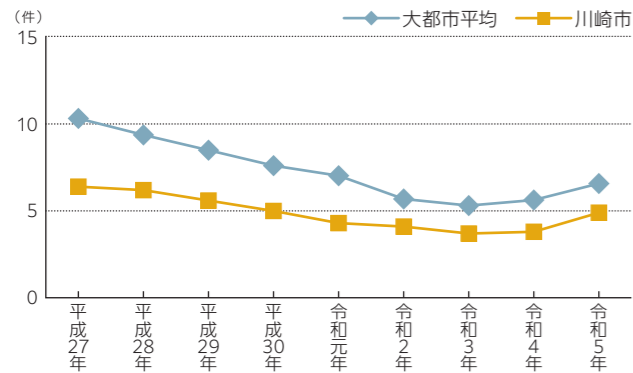
▶ 環境にやさしいまち

1人1日当たりのごみ排出量

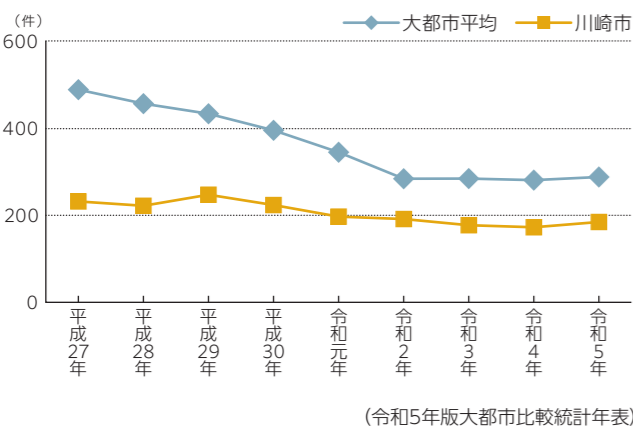


▶ 安心・安全なまち

人口千人当たり刑法犯認知件数



人口10万人当たり交通事故発生件数



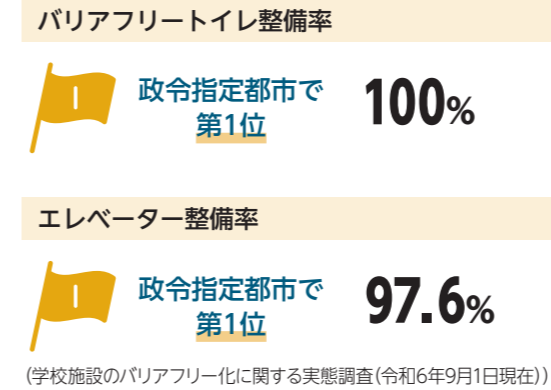
水道施設の耐震化状況

次の全ての項目で全国平均を大きく上回り、水道施設の耐震化が進んでいます。

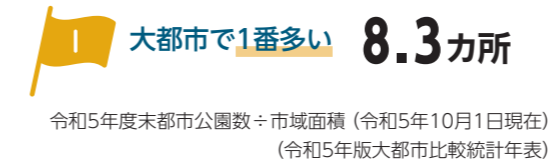


▶ 安心して子育てできるまち

公立小・中学校校舎のバリアフリー化状況

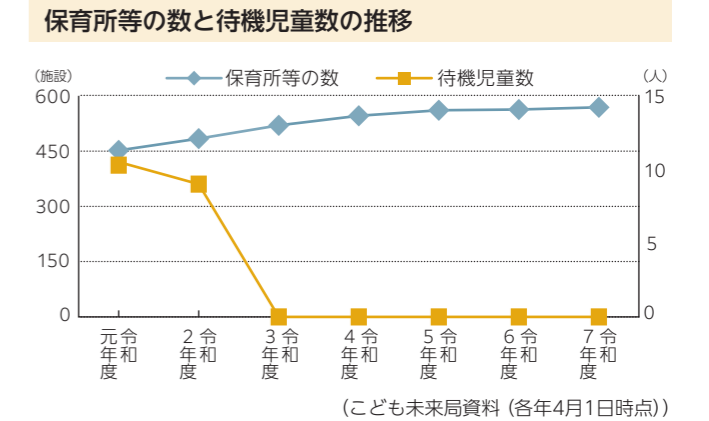
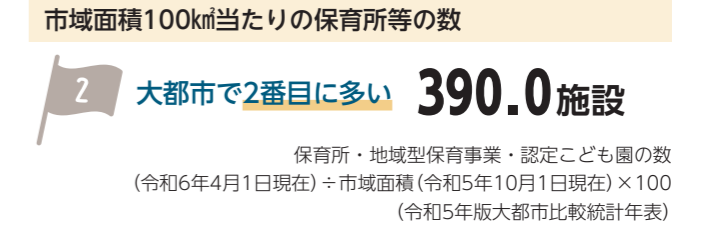


市域面積1km²当たりの都市公園数



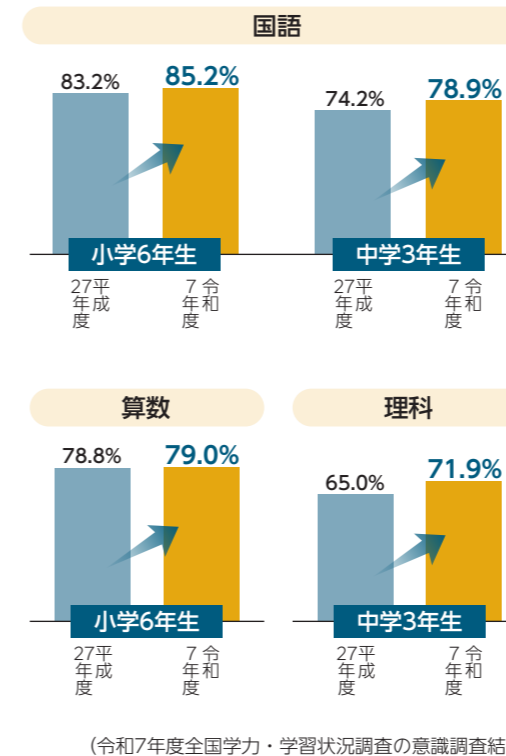
保育施設の状況

市域面積100km²当たりの保育所等の数は大都市で2番目に多く、市内の保育所等の数は年々増加しています。待機児童数は令和7年4月1日時点で5年連続ゼロになっています。



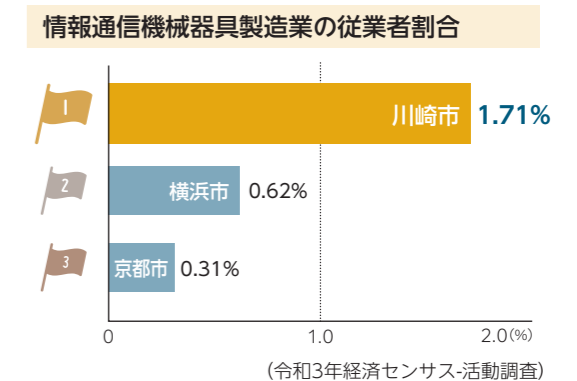
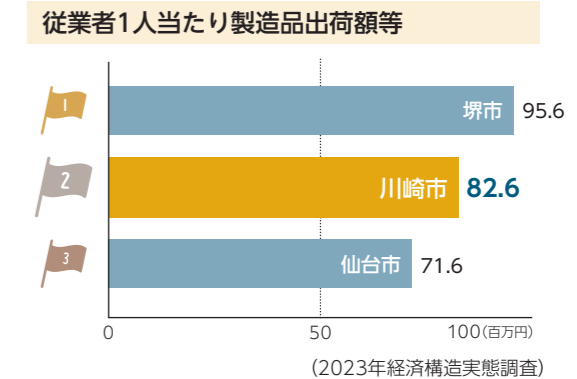
▶ 子どもの学びを大切に するまち

10年前と比べて「授業の内容がよく分かる」と答えた子どもの割合が増加しています。



▶ 産業が盛んなまち

従業者1人当たり製造品出荷額等は大都市で2番目に高く、情報通信機械器具製造業の従業者割合は大都市の中で最も高くなっています。



歴史で見る川崎

大正13(1924)年に誕生した川崎市。その頃から臨海部に工業地帯が形成され始めました。一方、内陸部は戦後に都市化が進みましたが、現在でも豊かな自然が残されています。原始から現在に至るまでの川崎市の歩みを振り返ります。

- 大正 13(1924)年 7月 川崎町・御幸村・大師町合併 川崎市誕生(人口48,394人) **A**
- 昭和 2(1927)年 4月 田島町に編入
- 8(1933)年 8月 中原町に編入
- 12(1937)年 4月 高津町・白吉村の部、市に編入
- 6月 橋村、市に編入
- 13(1938)年 10月 稲田町・生田村・宮前村・向丘村、市に編入
- 14(1939)年 4月 柿生村・岡上村、市に編入
- 7月 全国初工業用水道完成
- 19(1944)年 10月 市電開通(昭和44年3月廃止)
- 20(1945)年 4月 川崎大空襲、市街地焼失 **B**
- 25(1950)年 12月 市営バス営業開始
- 26(1951)年 6月 市が川崎港の港湾管理者に
- 32(1957)年 9月 市人口50万人突破
- 42(1967)年 4月 日本民家園開園
- 46(1971)年 8月 青少年科学館開館
- 47(1972)年 3月 川崎市公害防止条例施行
- 政令指定都市になる
- 4月 (川崎・幸・中原・高津・多摩の5区誕生) **C**
- 48(1973)年 5月 100万人目の市民誕生
- 52(1977)年 7月 全国初の環境アセスメント条例施行
- 57(1982)年 6月 核兵器廃絶平和都市宣言
- 7月 高津・多摩区の区分により、宮前区・麻生区誕生(7区制)
- 59(1984)年 10月 情報公開制度実施
- 61(1986)年 10月 川崎地下街アゼリア誕生



A 旧川崎町役場前
提供：川崎市市民ミュージアム



B 空襲による被害
(六郷橋付近から市役所方面を見る)



C 川崎市指定都市記念式典
提供：川崎市映像アーカイブ

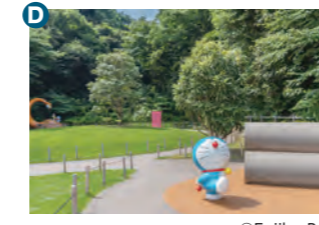
- 平成 2(1990)年 11月 市民オンブズマン制度創設
- 4(1992)年 4月 平和館開館
- 7(1995)年 10月 廃棄物の鉄道輸送開始
- 8(1996)年 12月 外国人市民代表者会議開始
- 9(1997)年 3月 かわさき健康都市宣言
- 12月 東京湾アクアライン開通
- 11(1999)年 10月 岡本太郎美術館開館
- 13(2001)年 4月 子どもの権利条例施行
- 14(2002)年 4月 人権オンブズパーソン制度創設
- 15(2003)年 4月 全市立小学校にわくわくプラザ開設
- 16(2004)年 7月 ミューザ川崎シンフォニーホール開館(市制80周年)
- 17(2005)年 4月 川崎市自治基本条例施行
- 18(2006)年 2月 市立多摩病院開院
- 19(2007)年 10月 アートセンター開館
- 20(2008)年 4月 人工海浜がある東扇島東公園開園
- 21(2009)年 4月 川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)開催
- 22(2010)年 3月 JRR横須賀線武蔵小杉駅開業
- 23(2011)年 4月 日本映画大学開学
- 8月 かわさきエコ暮らし未来館開館
- 8月 浮島太陽光発電所運転開始
- 9月 藤子・F・不二雄ミュージアム開館 **D**
- 12月 扇島太陽光発電所運転開始
- 24(2012)年 4月 青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館)リニューアルオープン **F**
- 25(2013)年 3月 川崎生命科学・環境研究センター(LISE)開設
- 3月 殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」まちびらき
- 10月 東海道かわさき宿交流館開館
- 26(2014)年 1月 第一回区民座集會開催
- 4月 市立川崎高等学校を市内初の公立中高一貫教育校へ再編、附属中学校開校 **G**



F 新本庁舎

E Colors, Future!
いろいろって、未来。
多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。
川崎は、1色ではありません。
あかろく、あざやかに、まなびを。
明日は、特色の川崎とお逢おう。
次の100年へ向けて。
あたらしい川崎を生ま出していこう。

ブランドメッセージ



D 藤子・F・不二雄ミュージアム
©Fujiko-Pro



G 市制100周年記念式典

原始～古代

川崎市域では、約3万数千年前の旧石器時代から人の営みが始まりました。海面上昇がピークを迎えた縄文時代前期には、高津区溝口付近にまで海岸線が入り込み、周辺の丘陵上には多くの貝塚が残されました。縄文時代中期以降、海岸線は徐々に後退し、丘陵上での定住的な生活が営まれるようになりました。古代には、律令国家の地方支配を支える拠点として、高津区から宮前区にかけて橋樹郡家が営まれ、その西隣に古代寺院が建立されました(国史跡橋樹官衙遺跡群)。



国史跡橋樹官衙遺跡群(橋樹郡家跡)で見つかった建物跡など

中世～近世

平安時代後期には、市域に川崎の地名の由来ともいわれる河崎荘や稲毛庄(荘)などの荘園が成立しました。鎌倉時代から室町時代にかけては、鎌倉の北の要衝としてたびたび合戦の舞台となり、戦国時代になると、小田原北条氏の支配が市全域に及びました。小田原北条氏滅亡後、徳川家康が関東へ入国すると、安定した経営基盤を築くための地域開発として二ヶ領用水が開削され、江戸を起点とした東海道や中原街道などの幹線道路には宿場や継立村が置かれるなど、川崎市域は江戸を支える地域として重要視され発展しました。



歌川広重
[東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟]
川崎・砂子の里資料館所蔵

近現代

明治時代に鉄道が開通(川崎駅)、東京と横浜の中間に位置するという立地条件に注目した地元の活発な企業誘致により、多摩川下流域に多くの近代工場が進出し始めました。また、臨海部では浅野総一郎らによる埋立事業が大正2(1913)年に始まり、大工場が次々に建設されて急速に工業都市化が進みました。このような中で、大正13(1924)年に川崎市が誕生しました。戦中には、多数の軍需工場が存在したために、戦災も大きなものでしたが、工業都市として復興を遂げ、昭和47(1972)年には政令指定都市となり、現在もさらに力強く発展を続けています。

- 令和 元(2019)年 12月 市動物愛護センターが中原区上平間に移転
- 2(2020)年 2月 2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言
- 7月 川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例全面施行
- 10月 等々力球場リニューアルオープン
- 11月 かわさきカーボンゼロチャレンジ2050策定
- 3月 多摩川スカイブリッジ開通
- 4月 政令指定都市移行50周年
- 4月 国の脱炭素先行地域に選定
- 4月 川崎市立看護大学設立
- 6月 新本庁舎完成 **F**
- 11月 東海道川崎宿起立400年
- 5月 橋樹歴史公園オープン
- 7月 市制100周年 **G**
- 10月 富士見公園リニューアル
- 10月 全国都市緑化かわさきフェア秋
- 3月 全国都市緑化かわさきフェア春
- 9月 カワサキ文化公園オープン
- 9月 川崎港コンテナターミナルが全国初のCNP認証を取得
- 27(2015)年 3月 橋樹官衙遺跡群が川崎市初の国史跡に指定
- 28(2016)年 3月 川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン策定
- 3月 JRR南武線小田栄駅開業
- 3月 川崎市総合計画「川崎市行政改革プログラム」策定
- 7月 市のブランドメッセージ策定 **E**
- 4月 市人口150万人突破
- 29(2017)年 10月 カルッツかわさき(スポーツ・文化総合センター)開館
- 12月 全市立中学校で完全給食実施
- 12月 川崎フロンターレJリーグ初優勝
- 2月 JR川崎駅北口通路・北改札供用開始
- 4月 市コンベンションホールが完成
- 30(2018)年 2月 市動物愛護センターが中原区上平間に移転
- 31(2019)年 2月 市民100万本植樹運動達成
- 2(2020)年 2月 2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言
- 6(2024)年 5月 橋樹歴史公園オープン
- 7(2025)年 9月 カワサキ文化公園オープン

川崎市映像アーカイブ

川崎市では、市が保有する過去の映像を広く公開しています。
川崎市映像アーカイブ 検索

川崎市議会

市民の代表者である市議会議員の活動により運営される市議会

市議会は、市民が選んだ市議会議員が、市のルールである条例やお金の使い道である予算、市議会に出される意見・要望などについて話し合う、市の意思決定機関です。年4回の定例会や必要に応じて開かれる臨時会があり、より詳細な話し合いをするために、5つの常任委員会が設けられています。また、市民に開かれた議会を実現するため広報紙「議会かわさき」の発行や本会議と委員会のインターネット中継なども行っています。



市民オンブズマン制度

市民オンブズマンは、市民からの市政に関する苦情申し立ての処理や市政の監視などを、市民権の理念に立って行い、必要に応じて、市長や市の関係機関に勧告・意見表明などを行い、行政の改善に努めています。

人権オンブズパーソン制度

人権オンブズパーソンは、いじめ、虐待など子どもの権利の侵害や、DV（ドメスティック・バイオレンス）、セクハラなど男女平等に関わる人権の侵害について相談や救済の申し立てを受け、関係機関などとの連携を図りながら問題解決に向けて活動を行っています。

かわさきスポーツパートナー

川崎をホームタウンとするトップチームを「かわさきスポーツパートナー」に認定しています。ホームゲームへの市民招待や市内小中学生を対象としたスポーツ教室などを通じて、スポーツを楽しめるまちづくりや、市のイメージアップに貢献していただいています。



©KAWASAKI BRAVE THUNDERS
川崎ブレイブサンダース
男子バスケットボール



写真 MASAKI FUJIOKA
東芝ブレイブアレス
野球



©KAWASAKI FRONTALE
川崎フロンターレ
サッカー



©Fujitsu
富士通フロンティアーズ
アメリカンフットボール



©Fujitsu
富士通レッドウィングス
女子バスケットボール



©NEC RED ROCKETS KAWASAKI
NECレッドロケッツ川崎
女子バレーボール

世界に開かれたまち川崎



名誉市民

市に関係が深く、市の発展などに卓絶した功績を残し、市民に敬愛される方々です。



藤嶋 昭さん
科学者

(平成30年選定)
「光触媒」を発見。
文化勲章受章

- (故)金刺 不二太郎さん 元市長(昭和46年選定)
- (故)伊藤 三郎さん 元市長(平成2年選定)
- (故)圓鏑 勝二さん 彫刻家(平成3年選定)
- (故)岡本 太郎さん 芸術家(平成4年選定)

市民文化大使 (五十音順)

文化芸術・スポーツ分野などで活躍されている方に市民文化大使をお願いし、市のイメージアップに貢献していただいています。



石田 泰尚さん
バイオリニスト



伊藤 多喜雄さん
民謡歌手



鶴澤 久さん
能楽師



大谷 康子さん
バイオリニスト



大矢 紀さん
日本画家



小原 孝さん
ピアニスト



国府 弘子さん
ピアニスト



佐藤 征一郎さん
声楽家



SHISHAMO
ミュージシャン



sumika
ミュージシャン



パンチ佐藤さん
スポーツタレント



松本 利夫さん
(EXILE)
俳優

名誉国際親善大使

ご自身の活動を通して、市の国際的なイメージの向上に貢献していただいています。



中澤 弘さん
医師



ライナー・キュッヒルさん
バイオリニスト

フランチャイズ・オーケストラ

東京交響楽団

ミューザ川崎シンフォニーホールを活動拠点に、数多くの演奏会を行う他、市内での巡回公演など、さまざまな演奏活動を行っています。



©T.Tairadate/TSO

かわさき健康都市宣言

心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることは、私たちみんなの願いです。川崎市に住み、働き、学ぶ一人ひとりが手を携えて、かけがえのない健康をはぐんでいくために、次のことを行います。

- 私たちは、「市民健康デー」を大きく実らせ、進んで健康づくりに励みます。
- 私たちは、スポーツや運動に親しみ、食生活と休養に気を配り、健康的なライフスタイルを身につけます。
- 私たちは、健康を支える温かな家庭、だれもが安全で安心して暮らせる地域、思いやりあふれる社会をめざします。
- 私たちは、多摩川や海辺の潤いと多摩丘陵の緑などの恵みを健康に生かし、安らぎのある環境づくりに努めます。

細長く変化に富んで広がる川崎市は、私たちみんなのふるさとです。地域の隅々から元気な声がこだまする、明日に伸びゆく人間都市を創造していくために、ここに「かわさき健康都市」を宣言します。

平成9年3月25日 川崎市

核兵器廃絶平和都市宣言

真の恒久平和と安全を実現することは、人類共通の念願である。

しかるに、核軍備の拡張は依然として行われ、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

わが国は、世界唯一の被爆国として、被爆の恐ろしさ、被爆者の苦しみを声を大にして全世界の人々に訴え、再びこの地球上に広島、長崎の、あの惨禍を繰り返させてはならない。

このことは、人類が遵守しなければならない普遍的な理念であり、我々が子孫に残す唯一の遺産である。

川崎市は、わが国の非核三原則が完全に実施されることを願い、すべての核保有国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、国際社会の連帯と民主主義の原点に立って、核兵器廃絶の世論を喚起するため、ここに核兵器廃絶平和都市となることを宣言する。

昭和57年6月8日 川崎市

市制10周年記念

YouTubeの川崎市チャンネルで
視聴できます



川崎市歌 (昭和9年制作) 作詞/小林俊三 作曲/高階哲夫

一、 見よ 東に 寄する暁潮 富士の姿を 真澄に仰ぎ かがやく雲を いろどる多摩川 希望満つる 朝風 今ぞ明けゆく わが川崎市	二、 東海道の おもかげいずこ 左右に展ぶる 大都の翼 高らかに打つ 文化の脈はく 科学に樹つ 栄光 勢い努めて わがいのち	三、 巨船つなぐ ぶ頭の影は 太平洋に 続く波の穂 汗と力に 世界の資源を 集め築く 基礎 今ぞ輝く わが川崎市
--------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------

市章 (大正14年制定)



川崎市の市章は「川崎」の「川」の字を表すだけでなく、市民の歴史とともに流れ続ける多摩川と、それと同じように発展する「川崎」を象徴しています。

市民の花・市民の木 (昭和49年制定)



市民の花 つつじ 市民の木 つばき

市制50周年を記念して市民にゆかりの深いもの、親しみのあるもの、都市緑化にふさわしいものなどを考えて、市民投票で選ばれました。